ICOM

取扱説明書

携帯型デジタル簡易無線機

IC-DPR30

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられますのでご注意ください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けた登録局対応の携帯型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の特長について

◎ IP67（耐塵形と防浸形）、IP55（防塵形と防噴流形）★1の性能に対応できるように設計されています。
（バッテリーカバー、［マイク/イヤホン］ジャックの保護カバー装着時に限る）

◎ デジタル無線機の特長として、高音質で通話できます。

◎ 上空用チャンネル（5チャンネル）搭載により、グライダーなど高所での通話ができます。

◎ Bluetooth®機能搭載により、VS-3などのBluetooth®対応機器を使用できます。

◎ チャンネル番号音声案内機能を使用すると、通話チャンネルを切り替えたとき、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。

◎ ポケットビープメロディー機能を使用すると、ポケットビープの代わりとして、メロディーで通知できます。

◎ あらかじめ設定した複数のチャンネルを巡回受信できるメモリーチャンネルスキャン機能を装備しています。

◎ 個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」、「3S」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。★2

◎ イコライザー機能を使用すると、好みの音質にできます。★3

★1 「IP表記について」（P.v）をご覧ください。
★2 AMBE+2™方式を採用している機種に対応しています。
★3 イコライザー機能が有効なのは、無線機本体のスピーカー出力だけです。

チャンネルについて

種別	種別コード	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R	30★1	陸上、海上
登録局（上空利用）	3S	5★2	上空、陸上、海上

★1 CH01～CH14、CH15（呼出CH）、CH16～CH30の30チャンネルです。
CH15（呼出CH）は、陸上、または海上で使用時、通話チャンネルが決まっていない場合の一時的な呼び出しをするときに使用します。（P.9）
多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。

★2 CH S1～CH S5の5チャンネルです。

このガイドは、本製品をはじめてお使いになるかたの手元に登録状が届いたあと、すぐに通話を開始するための操作手順を説明しています。
※破線に沿って切り取り、折り畳んでいただくことにより、携帯できる大きさになります。

簡単ご利用ガイド

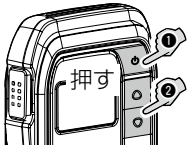
IC-DPR30

1. 電源を入れ、音量を調整する(P.8)

❶ [⏻](電源)キーを長く(約2秒)押します。

❷ [▲]/[▼]キーを押して、聞きやすい音量に調整します。

- 表示部に音量を表示します。



2. 通話チャンネルを合わせる(P.9)

【通話チャンネルが決まっている場合】

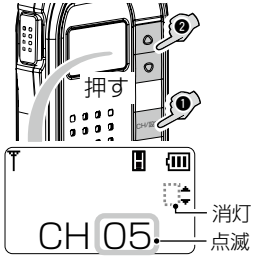
❶ [CH/設定]キーを短く押して、編集モードにします。

※編集モード時は、「🔈」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「🔈」が点灯して、編集モードが解除されます。

❷ [▲]/[▼]キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01～14、16～30、S1～S5

※相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

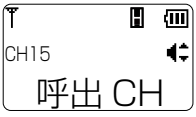


チャンネル編集モード
(表示例:5チャンネル)

【通話チャンネルが決まっていない場合】

上記、手順❷の操作で、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。

※「CH01～CH14」、「CH15(呼出CH)」、「CH16～CH30」は、上空で使用できません。



呼出用チャンネル表示

〈呼出用チャンネルについて〉

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、ユーザーコードや秘話機能は使用できません。
「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話してください。

3. 自分の音声を送信する(P.9)

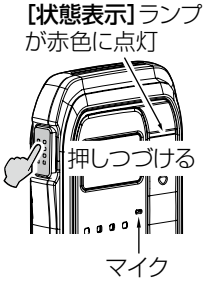
[PTT](送信)スイッチを押しながらマイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、**[状態表示]**ランプが赤色に点灯します。

4. 相手の音声を受信する(P.10)

[PTT](送信)スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

- 音声を受信しているあいだは、**[状態表示]**ランプが緑色に点灯します。



5. 通話をつづける(P.10)

送信と受信を交互に繰り返して通話をつづけます。

切り取り線

◆ ロック機能(P.31)

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

[PvCH/🔑]キーを長く(約1秒)押します。

● **「ピピッ」**と鳴って、🔑を表示します。

※同じ操作をすると、解除できます。

◆ ユーザーコード(UC)について(P.12)

同じユーザーコードを設定する相手とだけ通話できます。

❶相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。

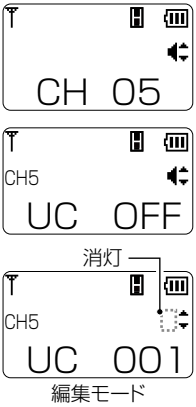
❷ **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「UC OFF」を選択します。

❸ **[CH/設定]**キーを短く押して、編集モードに移行します。

※編集モード時は、「🔈」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「🔈」が点灯して、編集モードが解除されます。

❹ **[▲]/[▼]**キーを繰り返し押して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

※編集モード時に、**[CH/設定]**キーを長く(約1秒)押すと、編集できる桁が点滅します。
[CH/設定]キーを短く押すごとに、編集できる桁が1つ右に移動します。
[機能]キーを押すと、点灯に変わり、確定します。



◆ 秘話機能について(P.15)

同じ秘話キーを設定する相手とだけ通話できます。

❶相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。

❷ **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」を選択します。

❸ **[CH/設定]**キーを短く押して、編集モードに移行します。

※編集モード時は、「🔈」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「🔈」が点灯して、編集モードが解除されます。

❹ **[▲]/[▼]**キーを短く押して、「秘話 ON」に切り替えます。

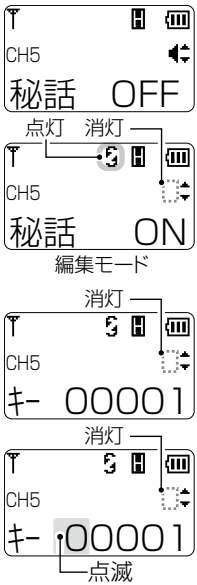
●「🔑」が点灯します。

❺編集モードの状態で、**[CH/設定]**キーを長く(約1秒)押します。

❻ **[▲]**キー、または**[▼]**キーを繰り返し押して、通話する相手と同じ秘話キー(5桁)を設定します。

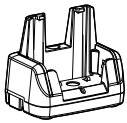
※ **[CH/設定]**キーを長く(約1秒)押すと、編集できる桁が点滅します。
[CH/設定]キーを短く押すごとに、編集できる桁が1つ右に移動します。

❼**[機能]**キーを押すと、確定します。

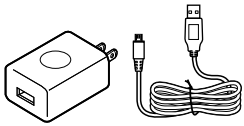


付属品について

バッテリーパック
（BP-286）

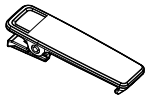


急速充電器
（BC-221）



ACアダプター
（BC-222）

※付属のUSBケーブルは充電専用です。データ通信には使用できません。



ベルトクリップ
（MBB-1）

ハンドストラップ

- □ 取扱説明書（本書）
- □ 申請書類一式
- □ 保証書

※付属品の一部は、別売品（9章）としてもご用意しています。

使用後はリサイクルへ

この製品は充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。
充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRCのホームページでご確認ください。
JBRCホームページ　http://www.jbrc.com/

ユーザー登録について

インターネットから http://www.icom.co.jp/ にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム（サポート情報→ユーザー登録）にしたがって必要事項を入力してください。

音声圧縮（符号化）方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE（Advanced Multi-Band Excitation）方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #8,595,002, #8,359,197, #8,315,860,#8,200,497, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

はじめに

防塵/防水性能について

バッテリーカバー、[マイク/イヤホン]ジャックの保護カバーを正しく取り付けた状態で、IP67/IP55の防塵/防水性能があります。
次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着した状態、またはぬれた手でバッテリーカバーや[マイク/イヤホン]ジャックの保護カバーを取り付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- −20℃〜+60℃以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーカバー、[マイク/イヤホン]ジャックの保護カバーのすきまに微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。
IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。
また、保護等級を定めない場合は、その等級に該当する数字の部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形)　：試験用粉塵を1m^{3}あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること
IP6X(耐塵形)　：試験用粉塵を1m^{3}あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機内部に粉塵の侵入がないこと
IPX5(防噴流形)：注水ノズル(内径6.3mm)をすべての方向に使用して、3mの距離から、1分間1m^{2}あたり約12.5リットルの水を3分間以上注入後、無線機として正常に機能すること
IPX7(防浸形)　：水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

別売品の使用による防塵/防水性能について

別売品(9章)については、防塵/防水構造になっていません。
別売品を使用したときは、無線機本体についても防塵/防水性能が維持できませんのでご注意ください。

電波法上のご注意

◎ 無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)

◎ 登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。
再登録の申請は、有効期間満了の3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。

◎ 本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。

◎ 他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎ 本製品は、日本国内における陸上及び日本周辺海域並びにそれらの上空で運用する無線機です。
CH01～CH14、CH15(呼出CH)、CH16～CH30は上空で使用できません。
上空で使用する場合は、CH S1～CH S5を使用してください。
無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられます。

取り扱い上のご注意

◎ 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

◎ 雨の中や、水滴が付着した状態、またはぬれた手でバッテリーカバーや[マイク/イヤホン]ジャックの保護カバーを取り付けたり、はずしたりしないでください。

◎ 無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、正常に動作しないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

◎ 磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎ バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。

◎ 本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

はじめに

自動車運転時のご注意

◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
◎ 無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
◎ 安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。
海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。
※バッテリーカバー、保護カバーを無線機に正しく取り付けた状態で洗浄してください。
※常温の真水でやさしく洗い流してください。
※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意
次の場合は、防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。
◎ 無線機本体、ジャックの保護カバーが破損している場合
◎ 落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター内蔵のおもな電子機器】

◎LED照明器具　◎電磁調理器
◎自動車に搭載された電子機器　◎太陽光発電装置

2.4GHz現品表示記号の意味について

「2.4」　:2.4GHz帯を使用する無線設備
「FH」　:FHSS方式
「1」　:想定干渉距離が10m以下
「▬▬ 」:全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可

Bluetooth®使用時の電波干渉について

2.4GHz帯のBluetoothで通信するときは、次のことがらに注意してください。
この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局) および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記のサポートセンターにご連絡いただき、混信回避のための処置等についてご相談ください。
◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、下記へお問い合わせください。

お問い合わせ先
アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)
◆ **携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、**
06-6792-4949(通話料がかかります)
受付(平日 9:00〜17:00)

もくじ

はじめに――――――――― i

本製品の特長について.....i
チャンネルについて.....i
簡単ご利用ガイド.....ii
付属品について.....iv
ユーザー登録について.....iv
音声圧縮(符号化)方式について iv
防塵/防水性能について.....v
IP表記について v
別売品の使用による防塵/防水性能
について v
電波法上のご注意.....vi
取り扱い上のご注意.....vi
自動車運転時のご注意.....vii
海水が付着したときは？ vii
登録商標/著作権について vii
電磁ノイズについて.....viii
2.4GHz現品表示記号の意味についてviii
Bluetooth®使用時の電波干渉
について viii

安全上のご注意――――― xi

■ 無線機本体について.....xi
■ バッテリーパックについて.....xii
■ 充電器について xiv

1.ご使用前に ――――― 1

■ 付属品の取り付けかた.....1
■ 充電のしかた 2
■ 電池の残量表示について.....4
■ 電池の残量警告音について 4
■ 正しい充電のために.....4
■ 充電時間と使用時間の目安.....5
■ バッテリーパックの
特性と寿命について.....5
■ バッテリーパックの
膨らみについて 5

2.各部の名称と機能 ―― 6

■ 前面部/側面部 6
■ 表示部.....7

3.はじめての通話 ――― 8

■ 通話するときのアドバイス.....10

4.簡単なグループ通話
のしかた――――――― 12

■ ユーザーコードを使用して
通話するには 12
■ 通話チャンネルごとに
ユーザーコードを設定するには 14

5.盗聴防止の設定をするには――15

■ 秘話キーを使用して通話するには 15
■ 通話チャンネルごとに秘話キーを設定するには……18

6.個別呼び出し機能による通話――19

■ 呼び出しかたの種類について……19
■ 個別呼び出し機能を設定するには 20
■ 個別呼び出し機能で通話するには 22

7.そのほかの機能について25

■ 緊急呼び出し機能（エマージェンシー）……25
■ Lone Worker機能……27
■ マンダウン機能……27
■ プライベートチャンネル機能……28
■ プライベートチャンネルスキャン機能……28
■ メモリーチャンネルスキャン機能 29
■ ワンタッチアンサー機能……30
■ ロック機能……31
■ モニター機能……31
■ ポケットビープ機能……32
■ ポケットビープメロディー機能……32
■ 送信出力の切り替え……32
■ VOX機能の使いかた……33
■ 着信履歴機能……34
■ 録音機能……35
■ Bluetooth®の使いかた……36
■ ペアリングのしかた……37

8.各種機能の設定――39

■ 設定項目一覧……39
■ 設定モードに移行するには……41
■ 設定のしかた……41
■ 設定項目について……42

9.別売品について――54

■ 別売品一覧表……54
■ 別売品を接続するには……55

10.ご参考に――57

■ 日常のお手入れと点検について……57
■ 初期状態に戻す（リセットする）には……57
■ 故障かな?と思ったら……58
■ 従来製品との相互使用について……60
■ アフターサービスについて……60

11.定格――61

■ 無線機本体……61
■ BC-221 急速充電器（付属品）……61

さくいん――62

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

◎使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
◎次の「⚠危険」、「⚠警告」、「⚠注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。
◎お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

⚠危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】

◎地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
◎本製品を人命救助などの目的とした通信に使い、通信の途絶、電池の消耗、故障や誤動作などにより、人命に関わる事態が生じても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■ 無線機本体について

⚠危険

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告

◎**民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

◎**万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常がある場合は、使用しないでください。**
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

◎ **ハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。**
本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。

◎ **指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎ **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

◎ **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。**
また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎ **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

⚠注意

◎ **針金などの細い棒でマイクやスピーカーの穴に触れないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **無線機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となることがあります。

◎ **直射日光の当たる場所や空調機器の吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎ **−20℃〜+60℃以外の環境では使用しないでください。**
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

◎ **指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **電気・電子機器の動作に障害を与える場合は、送信しないでください。**
テレビやラジオなどに受信障害を与えたり、ブレーカーなどの機器が誤動作したりする原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■ バッテリーパックについて

⚠危険

◎ **コンクリートなどのかたい床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **火の中に投入したり、加熱したりしないでください。**
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

安全上のご注意

■ バッテリーパックについて（つづき）

⚠危険

◎ **火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。**
バッテリーパックの性能や寿命が低下したり、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎ **次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。**

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- バッテリーパックは、水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 金属類（針金、ネックレス、鍵など）や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

⚠警告

◎ **使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。**
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎ **電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
感電やけがの原因になります。

◎ **指定の充電時間以上、充電しないでください。**
指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎ **テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。**
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎ **満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。**
過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

⚠注意

◎ **次の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、(残量あり)の状態を表示(P.4)するまで使用して、無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
  約1ヵ月:−20〜+50℃
  約3ヵ月:−20〜+35℃
- −20〜+60℃以外の環境で使用しないでください。
- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-221(付属品:急速充電器)
  :0〜40℃
- 寒い屋外や冷えた状態で充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
乾いたやわらかい布でふいてください。

■ 充電器について

⚠危険

◎ **次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。**

- 充電器(付属品:BC-221)とACアダプター(付属品:BC-222)は、本製品の充電以外に使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
  BP-286(付属品)専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。
  また、ご自分で修理しないでください。

安全上のご注意

■ 充電器について（つづき）

⚠警告

◎ **次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。**

- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
  また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手でACアダプターや機器には絶対に触れないでください。
- 付属のUSBケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 付属のUSBケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 付属のUSBケーブルに傷がある、またはACコンセントや付属のUSBケーブルの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
  すぐにACコンセントからACアダプターを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎ **直射日光の当たる場所や空調機器の吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

◎ **次の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。**

- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-221（付属品：急速充電器）
  ：0～40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 付属のUSBケーブルの根元を持って抜き差ししてください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。

■ 付属品の取り付けかた

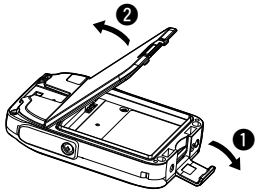
【バッテリーパック】

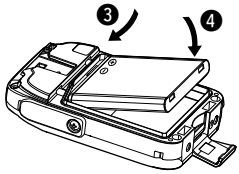
①ロック(❶)をはずして、バッテリーカバー(❷)をはずします。

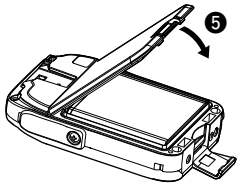
②バッテリーパックの端子の位置を確かめて、バッテリーパックを手順(❸、❹)のように取り付けます。

③バッテリーカバー(❺)を取り付けて、すきまができないように押します(❻)。

④赤いガイド部が見えないことを確認して、ロック(❼)をします。

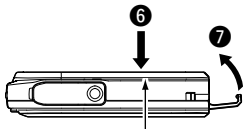






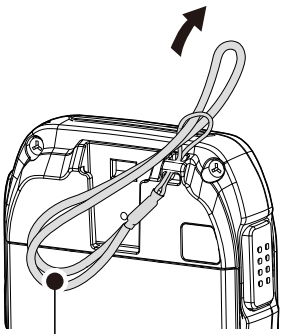
ご注意
防水性能を維持するために、バッテリーカバーのすきまから赤いガイド部が見えないことを確認してからロックしてください。

⚠注意
しばらく使用しないときは、バッテリーパックを本製品から必ず取りはずしてください。
本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、電池が消耗する原因になります。



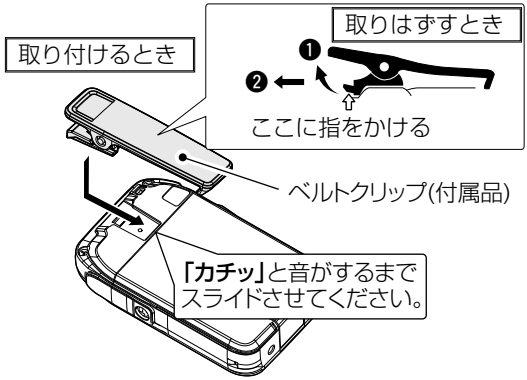
赤いガイド部が見えないことを確認する

【ハンドストラップ】



ハンドストラップ(付属品)

【ベルトクリップ】

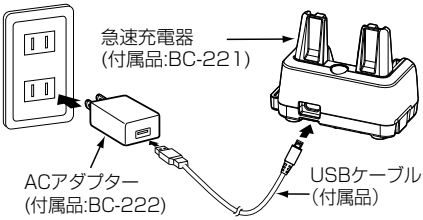


■ 充電のしかた

本体にバッテリーパックを装着したまま、またはバッテリーパック単体で充電できます。お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

※充電時間と使用時間については、5ページをご覧ください。
※充電ランプが赤色/青色で交互に点滅する場合は、58ページをご覧ください。

1.急速充電器(BC-221)とACアダプター(BC-222)に、付属のUSBケーブルを差し込み、電源プラグをACコンセントに接続します。



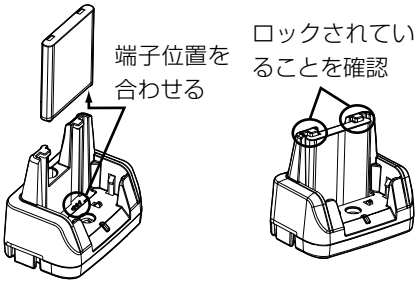
2.下図のように、電源を切った状態の無線機を急速充電器に**「カチッ」**と鳴るまで差し込みます。

3.充電ランプが赤色に点灯し、充電が完了すると充電ランプが青色に点灯します。

※充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下したときは、自動的に再充電を開始します。
※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。
※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。

【バッテリーパック単体で充電するには】

下図のように、バッテリーパックの端子を急速充電器に合わせて差し込み、ロックされていることを確認してください。

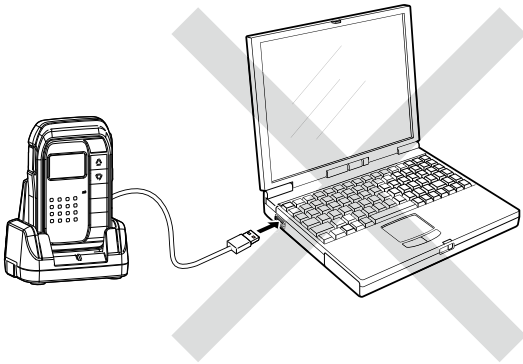


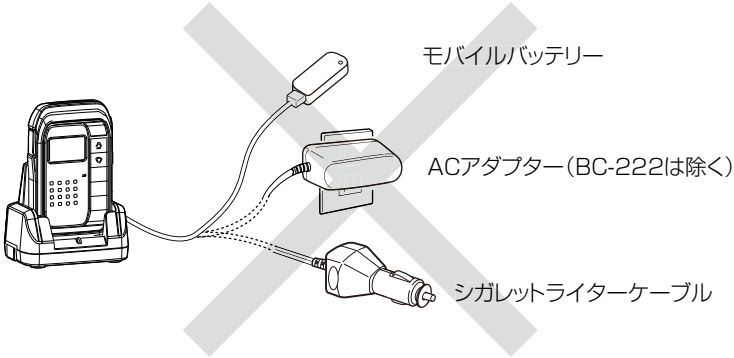
⚠危険

◎充電するときは、必ず本製品に付属の充電器をご使用ください。
◎指定(BP-286)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
◎「安全上のご注意」(P.ix ～P.xv)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

■ 充電のしかた（つづき）

2ページ以外の方法で充電した場合の動作、使用時間は保証対象外です。
下図の充電で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。



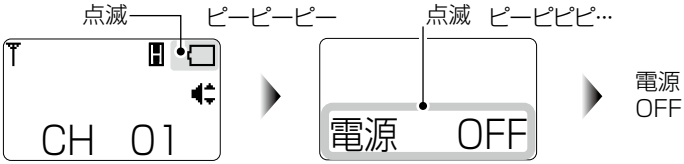


■ 電池の残量表示について

電池の残量が少なくなると、電池マークが点滅し、極端に少なくなると「電源 OFF」を点滅表示したあと、電源が切れます。
※残量が少なくなったら、バッテリーパックを充電してください。

■ 電池の残量警告音について

残量が点滅表示になると、残量警告音が**「ピーピーピー」**と、約30秒ごとに鳴ります。
警告音が鳴り出したら、すぐに充電してください。
※点滅表示の状態で使用をつづけると、残量警告音が**「ピーピピピ･･･」**と2秒間鳴りつづけたあと、無線機の電源が自動的に切れます。



■ 正しい充電のために

◎バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができます。
　なお、満充電した直後に再充電しないでください。
◎満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
　長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が(残量あり)の状態になるまで使用し、無線機からバッテリーパックを取りはずして保管してください。
◎極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
　充電器は、次の環境でご使用ください。
　BC-221(付属品:急速充電器)　　:0～40℃
◎電源端子や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
◎充電中は、揺らす･たたくなどの衝撃を与えないでください。

■ 充電時間と使用時間の目安

運用方法によって、充電時間や使用できる時間が異なります。

名称 / 定格項目			BP-286			
電池の種類			リチウムイオン			
電池の容量			1960mAh min. (2020mAh typ.)			
出力電圧			3.8V			
寸法 (幅×高さ×奥行)			45.6×50×6.9 〈条件〉突起物は含まず / 〈単位〉mm			
使用時間	Bluetooth		OFF		ON	
	パワーセーブ★		OFF	ON	OFF	ON
	送信出力	1W	約11時間	約13時間	約10時間	約11時間
		0.5W	約12時間	約14時間	約11時間	約12時間30分
		0.2W	約13時間	約15時間	約12時間	約14時間
	〈条件〉送信1、受信1、待ち受け受信18の割合で繰り返し運用					
充電時間			約 3 時間 20 分〈条件〉BC-221 を使用時			

★無線機本体のパワーセーブ機能の詳細については、50ページをご覧ください。

■ バッテリーパックの特性と寿命について

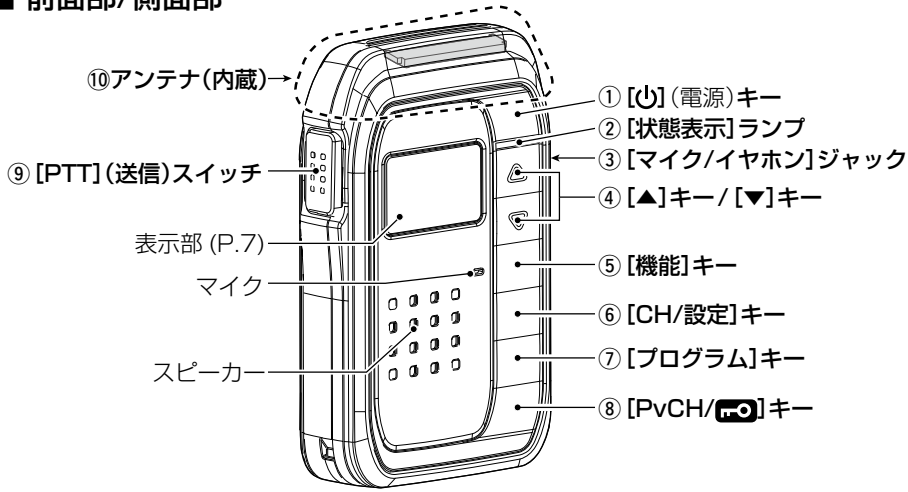
◎バッテリーパックは、消耗品です。充電できる回数は、約500回です。
　充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止してください。
◎発火や火災の原因になることがありますので、劣化したバッテリーパックは使用しないでください。
◎使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。
◎劣化がはじまると、充電が完了しても使用時間が短くなります。
◎充電が完了しても、使用時間が極端に短くなったときは寿命です。
　無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内に新しいものと交換をおすすめします。

■ バッテリーパックの膨らみについて

下記のような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。
◎ひんぱんに充電している
◎満充電直後でも再充電している
◎高温な場所で使用･保管している
◎本書で説明する充電方法と異なる
バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

2 各部の名称と機能

■ 前面部/側面部



① [⏻](電源)キー

電源ON　:長く(約2秒)押す

電源OFF :長く(約1秒)押す

※電源を切るまでの[⏻](電源)キーの長押し時間を変更できます。(P.50)

② [状態表示]ランプ

[PTT](送信)スイッチを押しているあいだ(送信中)は赤色、電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。

③ [マイク/イヤホン]ジャック

別売品のヘッドセットなどを接続できます。別売品を接続しないときは、保護カバーを閉じた状態でご使用ください。

④ [▲]キー/[▼]キー

音量の調整をします。

編集モードの場合は、通話チャンネル、ユーザーコード、秘話機能、秘話キーの各表示項目の設定内容が切り替わります。

⑤ [機能]キー

短く押すごとに、表示項目が「ユーザーコード」(P.12)→「秘話機能」(P.15)→「通話チャンネル」の順に切り替わります。

⑥ [CH/設定]キー

◎短く押すと、編集モードになります。

◎長く(約1秒)押すごとに、送信出力(1W(High)/0.5W(Middle)/0.2W(Low))が切り替わります。(P.32)

⑦ [プログラム]キー

スキャンのON/OFFやモニター等の各種機能を割り当てできます。(P.48)

⑧ [PvCH/]キー

◎短く押すと、設定されたプライベートチャンネルに切り替わります。(P.47)

◎長く(約1秒)押すごとに、ロック機能の「ON」/「OFF」が切り替わります。(P.31)

⑨ [PTT](送信)スイッチ(P.9)

[PTT](送信)スイッチを押すと送信状態、はなすと受信状態になります。

⑩ アンテナ(内蔵)

電波を発射、または受信する部分です。

※使用時に、この部分を手などで覆うと最大通信距離が短くなります。(P.11)

■ 表示部

①電波状態表示
受信している電波の強さを4段階で表示します。

無　弱　中　強

②呼び出し(All/グ/メ)モード表示
All：全局呼び出し
グ：グループ呼び出し
メ：グループメンバー表示

③ベル表示
通話相手から個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。
ポケットビープ機能(P.32)設定中は点灯します。

④録音機能表示(P.35)
録音データ状態、録音動作状態を表示します。
：録音データがある
：録音中
：録音を一時停止

⑤Bluetooth機能表示(P.37)
Bluetooth機能が「ON」のとき点灯します。
：Bluetooth機能を「ON」
：Bluetooth機器と接続中

⑥秘話表示
秘話機能が「ON」のときに点灯します。

⑦緊急呼び出し(エマージェンシー)表示
緊急呼び出し機能(P.25)が設定されているときに表示します。

⑧送信出力表示(P.32)
各通話チャンネルの送信出力(High/Middle/Low)の設定状態を表示します。
H：1W(High)設定時
M：0.5W(Middle)設定時
L：0.2W(Low)設定時

⑨スキャン表示
プライベートチャンネルスキャン(P.28)中は「PRI」を、メモリーチャンネルスキャン(P.29)中は「MC」を表示します。

⑩電池残量表示
電池残量を4段階で表示します。
※各段階の詳細な説明は、4ページをご覧ください。

⑪ロック機能表示(P.31)
ロック機能が動作中のとき表示します。

⑫操作モード表示
音量変更モード、編集モード時に点灯します。
：音量変更モード(P.8)
：編集モード(P.9)

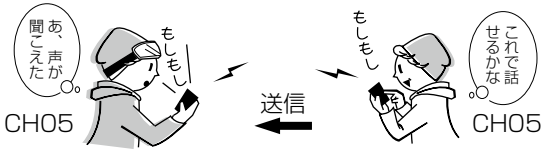
⑬[相手局番号/設定内容]表示
音量、通話チャンネル、ユーザーコード、秘話キー、設定モードで選択した設定項目や設定内容などを表示します。

⑭ガイドメッセージ表示
通話チャンネル、または着信などの状態を表示します。

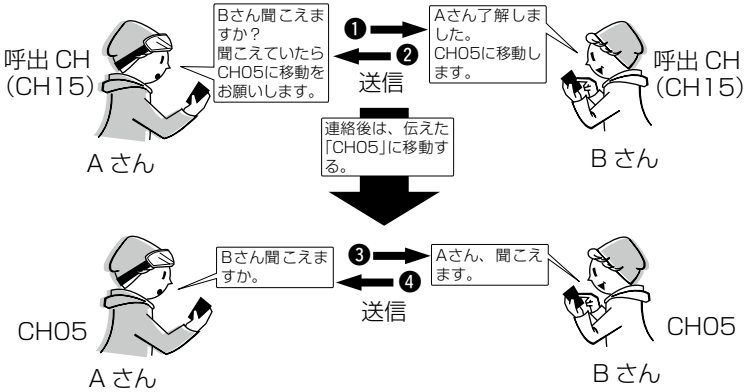
3 はじめての通話

相手と同じ通話チャンネルに合わせると通話できます。

【通話チャンネルが決まっている場合】



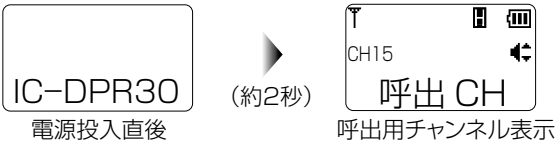
【通話チャンネルが決まっていない場合】

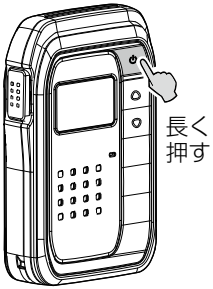


1.電源を入れる

[⏻]（電源）キーを長く（約2秒）押します。

- **[状態表示]**ランプが点灯し、**「ピー」**と鳴ります。



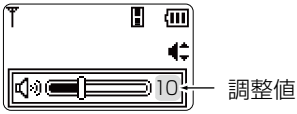


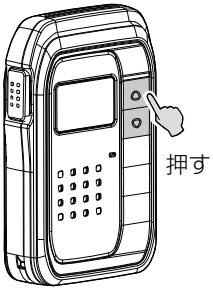
2.音量を調整する

[▲]キーを押すと、音量が大きくなります。

調整できる範囲は、「0～32」です。

※音量が最小のときは、キー操作音のビープ音、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。





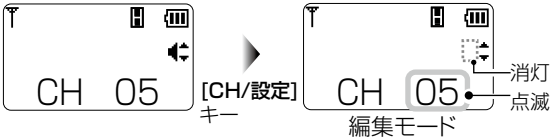
3.通話チャンネルを合わせる

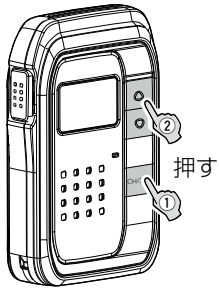
【通話チャンネルが決まっている場合】

①**[CH/設定]**キーを押して、編集モードにします。

※編集モード時は、「🔈」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「🔈」が点灯して、編集モードが解除されます。

②**[▲]/[▼]**キーを押して設定したい通話チャンネルに合わせます。



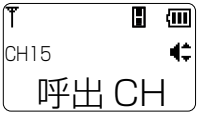


※**[▲]/[▼]**キーを押しつづけると、連続で切り替わります。
一巡すると、**「ピピッ」**と鳴ります。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

上記、手順②の操作で、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。

※「CH01～CH14」、「CH15(呼 出CH)」、「CH16～CH30」は、上空で使用できません。



呼出用チャンネル表示

〈呼出用チャンネルについて〉

陸上、または海上で使用時、通話チャンネルが決まっていない場合の一時的な呼び出しにだけ使用しますので、ユーザーコードや秘話機能は使用できません。
「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話してください。

4.音声を送信する

[PTT](送信)スイッチを押しながらマイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT]**(送信)スイッチを押しているあいだは、**[状態表示]**ランプが赤色に点灯します。

【マイクの使いかた】

マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。
マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなります。

5.相手の音声を受信する

[PTT]（送信）スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した相手の音声が聞こえます。
受信中は、**[状態表示]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態（P.7）を表示します。
待ち受け状態のときは、**[状態表示]**ランプが消灯しています。

受信中の表示例

【受信中の表示例】
通話相手以外の電波（同じ通話チャンネルで誰かが通話中）を受信しているときも、**[状態表示]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

6.通話をつづける

送信と受信は交互にします。
相手の通話が終了してから、送信してください。
※相手が送信しているときは、**[PTT]**（送信）スイッチを押しても混信防止機能（P.11）が動作して、「プップッ…」と鳴りつづけ、送信できません。
※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。

7.電源を切る

使用後は、電源を切ります。
※電源を切る前の通話チャンネルを記憶します。
※設定モードで、電源を切るまでの**[⏻]**（電源）キーの長押し時間を変更できます。（P.50）

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限について
1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。
制限時間の10秒前になると、**「ピッ」**と鳴ります。
連続通話時間が5分になると、警告音が**「ブッ」**と鳴って、自動的に送信を停止します。
停止してから1分間は送信することができません。
通話を再開する場合は、1分後に**[PTT]**（送信）スイッチを押してください。

2. 混信防止（キャリアセンス）機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると、混信を受け通話ができない場合があります。
また、ほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。
このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。
キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。
3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。
なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合（混信や妨害波を含む）についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがありますが、故障ではありません。
本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉（相互変調）による混信が発生することがあります。
このような混信は、グループごとに［通話チャンネル］の組み合わせを適切に設定することで防止できます。（P.19）

4. 通話範囲について

周囲の状況（天候、山や建物などの障害物）により、受信しにくくなることがあります。

◇通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。（送信出力：1W）
　市街地 ：約0.5～1km

◇通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなることがあります。
　そのときは、場所を少し移動して通話してください。
　また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

◇無線機の持ち方により、通話距離が短くなることがあります。
　無線機のアンテナ（内蔵）の部分を手で覆わないようにして、ご使用ください。

5. パワーセーブ機能について

何も操作しない（受信もしない）状態が10秒を超えると、自動的に無線機本体の動作を休止状態にし、電池の電流消費を抑えます。
※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
　設定モード（P.50）から設定を変更できます。
　なお、個別呼び出し機能（P.19）とは併用できません。

4 簡単なグループ通話のしかた

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネル(P.9)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

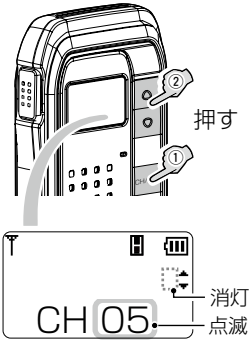
■ ユーザーコードを使用して通話するには

ユーザーコードを使用してグループ通話をする手順です。

1.通話チャンネルを合わせる

①[CH/設定]キーを押して編集モードに移行します。
※編集モード時は、「◀」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「◀」が点灯して、編集モードが解除されます。

②[▲]キー、または[▼]キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
※選択できる範囲は「01～14」、「16～30」、「S1～S5」です。
※[▲]キー、または[▼]キーを押しつづけると、連続で切り替わります。
一巡すると、「ピピッ」と鳴ります。

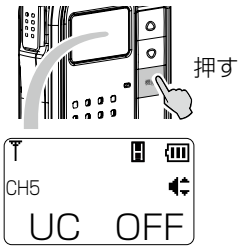


チャンネル編集モード
(表示例：5チャンネル)

2.UC(ユーザーコード)表示にする

[機能]キーを繰り返し短く押して、「UC OFF」(初期設定時)を選択します。

- 「UC OFF」→「秘話 OFF」→「通話チャンネル(例:CH05)」の順に切り替わります。
※表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、通話チャンネル表示に戻ります。
※「UC OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、その相手には聞こえません。



3.ユーザーコードを設定する

①[CH/設定]キーを押して、編集モードに移行します。

※編集モード時は、「◀」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「◀」が点灯して、編集モードが解除されます。

②[▲]キー、または[▼]キーを繰り返し押して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

●選択範囲:OFF、001～511

【編集できる桁を変更するには】

①編集モードの状態で[CH/設定]キーを長く(約1秒)押します。

● 編集できる桁が点滅します。

②[▲]キー、または[▼]キーを繰り返し押して、ユーザーコードを選択します。

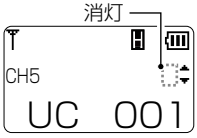
● [CH/設定]キーを押すごとに、編集できる桁が1つ右に移動します。

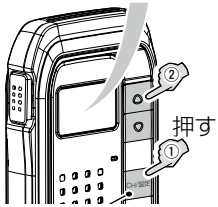
※[プログラム]キーを押すと、編集する前の値に戻ります。

③内容を確定するときは、[機能]キーを押します。

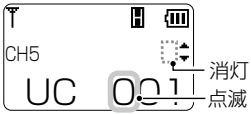
● 桁の点滅が点灯に変わります。

※約10秒後、通話チャンネル表示に切り替わります。





長く押すと編集できる桁が点滅



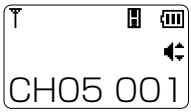
[CH/設定]キーを長く1回押したとき(例：上位1桁目)

4.自分の音声を送信する

[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

● [PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、[状態表示]ランプが赤色に点灯します。

※設定したユーザーコードは、通話チャンネル(例:CH05)の右側に表示(例:001)されます。



ユーザーコード(UC)表示

5.相手の音声を受信する

[PTT](送信)スイッチをはなすと待ち受け状態になり、自分と同じ通話チャンネルとユーザーコードで通話する相手局の音声を受信できます。

受信中は、[状態表示]ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(P.7)を表示します。

待ち受け状態のときは、[状態表示]ランプが消灯しています。

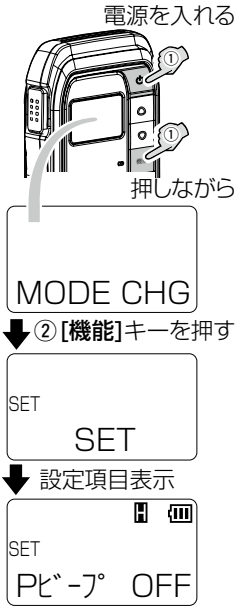
【受信中の表示例】

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードが異なる誰かが通話中)を受信しているときも、[状態表示]ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

受信中の表示例

■ 通話チャンネルごとにユーザーコードを設定するには

1.設定モードにする



① 本製品の電源を切った状態で、**[機能]**キーを押しながら、電源を入れます。
- 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。

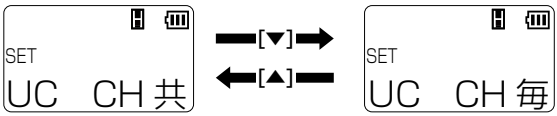
② **[機能]**キーから手をはなしたら、「MODE CHG」が表示されているあいだに、再度、**[機能]**キーを短く押します。
- 「ピピッ」と鳴って、「SET」を表示したあと、「Pビープ」を表示すれば、設定モードに移行しています。

※「MODE CHG」が表示されなかったときは、手順①から操作をやりなおしてください。

※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。
※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。

2.「UC CH毎」を選択する

① **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「UC CH共」(初期設定時)を選択します。(P.43)
② **[▼]**キーを押すと「UC CH毎」、**[▲]**キーを押すと「UC CH共」を選択できます。



通話チャンネル共通　　通話チャンネルごと

3.選択した設定方法に変更する

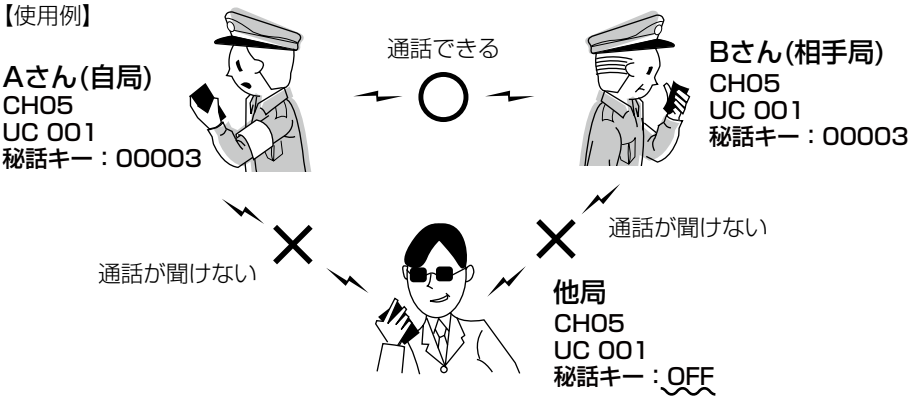
[PTT](送信)スイッチを押します。
- 設定モードが解除され、ユーザーコードの設定方法が変更されます。

※設定モードを解除するまで通話できません。

盗聴防止の設定をするには

秘話機能が設定されていない本製品を使用しているほかの相手に、通話内容が傍受されるのを防止できます。

【使用例】



※秘話機能を使用する人(上記の例:Aさん/Bさん)には、秘話機能を使用しない人(上記の例:他局)の通話が聞こえます。

※秘話キーを設定していないときは、秘話キーを設定している相手の通話は聞こえません。

※秘話キーが異なる相手からの電波を受信したときは、秘話処理された電子音だけが聞こえます。

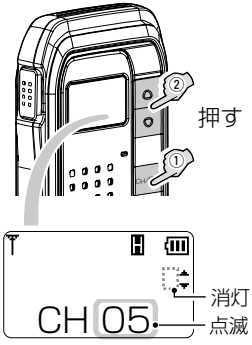
※ユーザーコードや個別呼び出し機能とも併用できます。

※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、秘話機能を使用できないため、本章の操作はできません。

■ 秘話キーを使用して通話するには

秘話キーを使用して通話をする手順です。

※「秘話CH毎」に設定されている場合、次ページで設定する秘話キーが、下記で選択した通話チャンネルに使用されます。



チャンネル編集モード
(表示例：5チャンネル)

1.通話チャンネルを合わせる

①**[CH/設定]**キーを押して編集モードに移行します。

※編集モード時は、「◀」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「◀」が点灯して、編集モードが解除されます。

②**[▲]**キー、または**[▼]**キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01～14、16～30、S1～S5

※**[▲]**キー、または**[▼]**キーを押しつづけると、連続で切り替わります。
一巡すると、**「ピピッ」**と鳴ります。

■ 秘話キーを使用して通話するには(つづき)

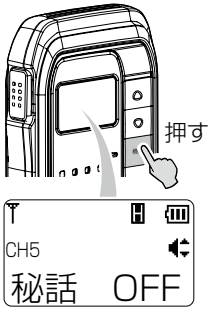
2.秘話表示にする

[機能]キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」(初期設定時)を選択します。

- 「UC OFF」→「秘話 OFF」→「通話チャンネル(例:CH05)」の順に切り替わります。

※表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、通話チャンネル表示に戻ります。

※「秘話 OFF」の場合、秘話機能を使用する他局の音声は聞こえません。



3.秘話機能をONにする

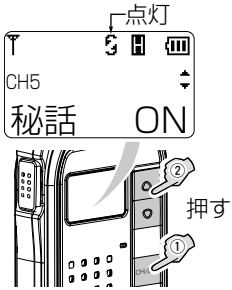
①**[CH/設定]**キーを押して編集モードに移行します。

※編集モード時は、「🔈」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「🔈」が点灯して、編集モードが解除されます。

②**[▲]**キー、または**[▼]**キーを短く押して、「秘話 ON」に切り替えます。

- 「🔊」が点灯します。

※「秘話 ON」の場合、自分の音声は、秘話キーが異なる他局には聞こえ(傍受され)ません。



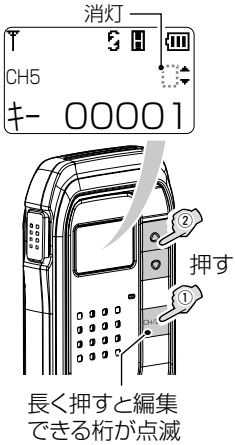
4.秘話キーを設定する

① 編集モードの状態で**[CH/設定]**キーを長く(約1秒)押します。

- 秘話キーを表示します。

② **[▲]**キー、または**[▼]**キーを繰り返し押して、通話する相手と同じ秘話キー(5桁)を設定します。

- 選択範囲:00001〜32767



【編集できる桁を変更するには】

① **[CH/設定]**キーを長く(約1秒)押します。

- 編集できる桁が点滅します。

② **[▲]**キー、または**[▼]**キーを繰り返し押して、秘話キーを選択します。

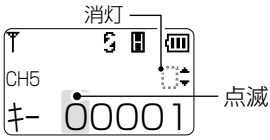
※**[CH/設定]**キーを繰り返し短く押すごとに、編集できる桁が1つ右に移動します。

※**[プログラム]**キーを押すと、編集前の数字に戻ります。

③内容を確定するときは、**[機能]**キーを押します。

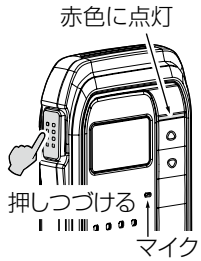
- 「秘話 ON」を表示します。

※約10秒後、通話チャンネル表示に切り替わります。



[CH/設定]キーを
長く押したとき
(例:上位1桁目)

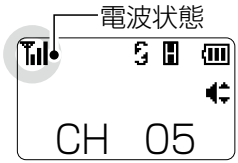
5.[PTT]（送信）スイッチを押す



[PTT]（送信）スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT]**（送信）スイッチを押しているあいだは、**[状態表示]**ランプが赤色に点灯します。

6.相手の音声を受信する



受信中の表示例

[PTT]（送信）スイッチをはなすと待ち受け状態になり、自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。
受信中は、**[状態表示]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態（P.7）を表示します。
待ち受け状態のときは、**[状態表示]**ランプが消灯しています。

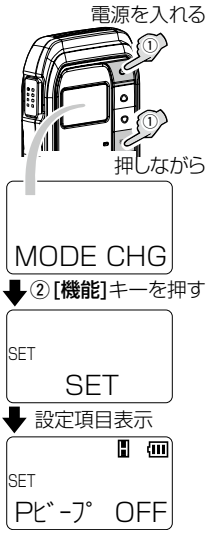
【受信中の表示例】
通話相手以外の電波（同じ通話チャンネルで、秘話キーが異なる誰かが通話中）を受信しているときも、**[状態表示]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。
※他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

ご注意
機密性を要する重要な通話に本製品をご使用になることは、おすすめできません。
また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

5　盗聴防止の設定をするには

■ 通話チャンネルごとに秘話キーを設定するには

1.設定モードにする



① 本製品の電源を切った状態で、**[機能]**キーを押しながら、電源を入れます。
- 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」を表示します。

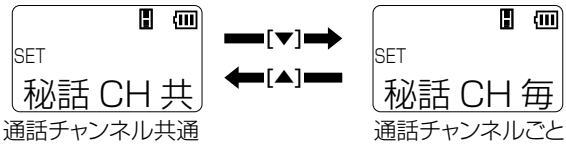
② **[機能]**キーから手をはなしたら、「MODE CHG」が表示されているあいだに、再度、**[機能]**キーを短く押します。
- 「ピピッ」と鳴って、「SET」を表示したあと、「Pビープ」を表示すれば、設定モードに移行しています。

  ※「MODE CHG」が表示されなかったときは、手順①から操作をやりなおしてください。

2.「秘話CH共」/「秘話CH毎」を選択する

① **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「秘話CH共」(初期設定時)を選択します。(P.43)

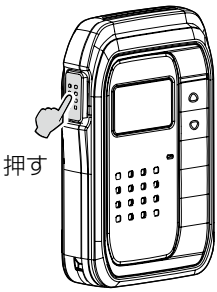
② **[▼]**キーを押すと「秘話CH毎」、**[▲]**キーを押すと「秘話CH共」を選択できます。



3.選択した設定方法に変更する

[PTT](送信)スイッチを押します。
- 設定モードが解除され、秘話キーの設定方法が変更されます。

  ※設定モードを解除するまで通話できません。



個別呼び出し機能による通話

■ 呼び出しかたの種類について

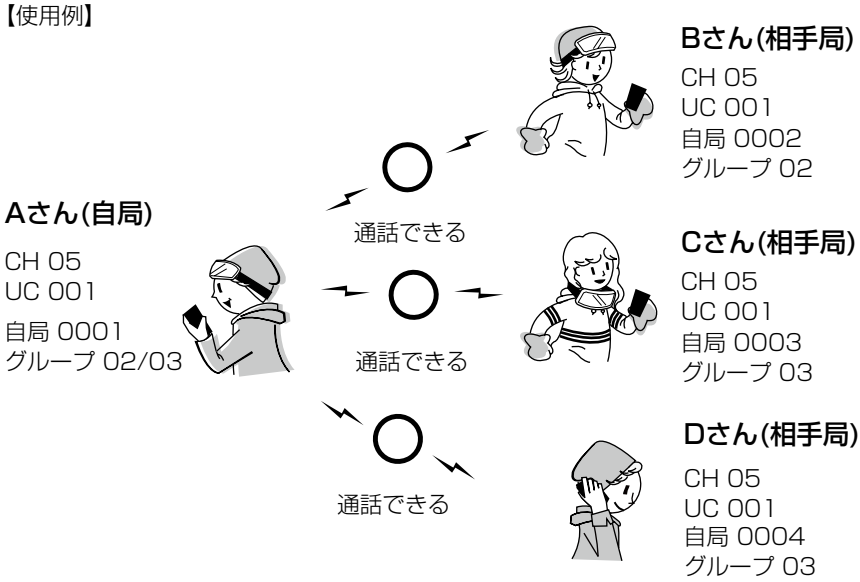
呼び出しかたには、次の3種類の方法があります。

◎全局呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じ相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎個別呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:0002)を指定して呼び出します。

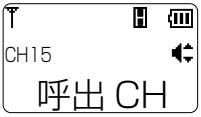
◎グループ呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、メンバー指定(P.21)されたグループ番号(使用例:グループ 03)に所属するすべての相手(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

【使用例】



【「呼出CH」表示での機能制限について】

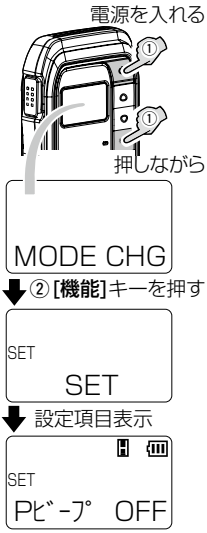
CH15は、陸上、または海上で使用できる呼出用チャンネルで、「呼出CH」と表示されます。
「呼出CH」表示のときは、グループ通話(P.12)や秘話機能(P.15)、個別呼び出し機能による通話はできません。



呼出用チャンネル表示

■ 個別呼び出し機能を設定するには

通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。



1.設定モードにする

① 本製品の電源を切った状態で、**[機能]**キーを押しながら、電源を入れます。
- **「ピッ」**と鳴って、**「MODE CHG」**を表示します。

② **[機能]**キーから手をはなしたら、**「MODE CHG」**が表示されているあいだに、再度、**[機能]**キーを短く押します。
- **「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、**「Pビープ」**を表示すれば、設定モードに移行しています。

※**「MODE CHG」**が表示されなかったときは、手順①から操作をやりなおしてください。

2.「個別 ON」を選択する

個別呼び出し機能OFF

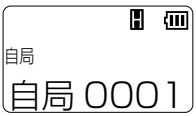
① **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「個別 OFF」(初期設定時)を選択します。(P.44)

② **[▼]**キーを押すと「個別 OFF」、**[▲]**キーを押すと「個別 ON」を選択できます。

※個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
手順3. ～5.で記載する設定値は、前ページ「呼び出しかたの種類について」の【使用例】(P.19)に記載の値を使用して説明しています。

3.自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。



自局番号表示
(表示例:0001)

① **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「自局 0001」(初期設定時)を選択します。(P.45)

② **[▲]**キー、または**[▼]**キーを押して、自局番号を設定します。

【設定例】
個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
Aさん(自局) :0001 Bさん(相手局):0002
Cさん(相手局):0003 Dさん(相手局):0004

4.「グループ ON」を選択する

① **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「グループ OFF」(初期設定時)を選択します。(P.45)

② **[▼]**キーを押すと「グループ OFF」、**[▲]**キーを押すと「グループ ON」を選択できます。

※個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

グループ番号表示ON

5.グループ呼び出しのメンバー指定

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

① **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「グループ 01」(初期設定時)を選択します。(P.45)

② **[▲]**キー、または**[▼]**キーを押して、指定するグループ番号を選択します。

③選択したグループ番号(例:グループ 02)を表示した状態で、**[プログラム]**キーを押します。

- メンバー指定を意味する「メ」を表示します。

※複数のグループからの呼び出しを受けるときは、手順②と③の操作を繰り返します。

【メンバー指定するグループ番号の例】

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

Aさん(自局)　:グループ02/グループ03
Bさん(相手局):グループ02
Cさん(相手局):グループ03
Dさん(相手局):グループ03

メンバー指定の状態

6.変更した設定値を確定する

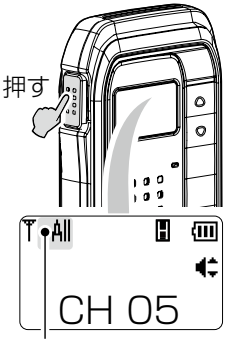
手順2. ～5.で変更した設定値を確定するために、**[PTT]**(送信)スイッチを押します。

- 設定モードが解除され、設定した自局番号の表示(約1秒)後、「All」(全局)が表示されます。

※設定値を変更後に、**[⏻]**(電源)キーを押して、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

※設定モードを解除するまで通話できません。

電源投入直後　　自局番号表示例

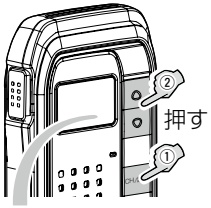


「All」(全局)を表示

■ 個別呼び出し機能で通話するには

相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(P.20、P.21)されているものとして説明しています。



1.通話チャンネルを合わせる

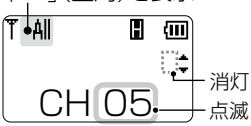
① **[CH/設定]**キーを押して編集モードにします。

※編集モード時は、「◀」が消灯します。
何も操作しない状態が5秒以上つづくと、「◀」が点灯して、編集モードが解除されます。

② **[▲]**キー、または**[▼]**キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01～14、16～30、S1～S5

「All」(全局)を表示



チャンネル編集モード
(表示例:5チャンネル)

> **「All」(全局)表示で、[PTT](送信)スイッチを押すと**
> 通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30、CH S1～CH S5)、ユーザーコード、秘話機能の設定が同じすべての相手を呼び出しできます。
> あらかじめ、自局番号を通話相手に知らせるときなどに使用できます。

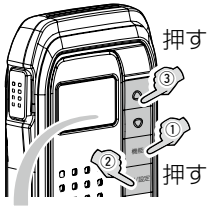
2.相手局番号を合わせる

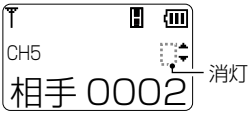
▶1局を呼び出すときは(個別呼び出し)

① **[機能]**キーを繰り返し短く押して、「相手局番号」(初期設定時:0002)を選択します。

② **[CH/設定]**キーを押して編集モードにします。

③ **[▲]**キー、または**[▼]**キーを押して、相手の自局番号(例:0002)に合わせます。





相手局編集モード
(表示例:0002)

【編集できる桁を変更するには】

①編集モードの状態で、**[CH/設定]**キーを長く(約1秒)押します。

- 編集できる桁が点滅します。

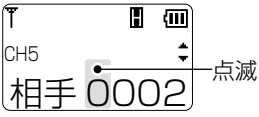
② **[▲]**キー、または**[▼]**キーを繰り返し押して、相手局番号を選択します。

※**[CH/設定]**キーを繰り返し短く押すごとに、編集できる桁が1つ右に移動します。

※**[プログラム]**キーを押すと、編集前の数字に戻ります。

③内容を確定するときは、**[機能]**キーを短く押す、または**[CH/設定]**キーを長く(約1秒)押します。

- 桁の点滅が点灯に変わります。

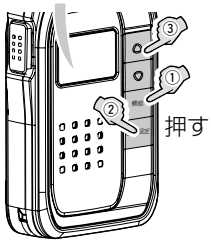


[CH/設定]キーを長く押したとき
(例:上位1桁目)

■ 個別呼び出し機能で通話するには

2.相手局番号を合わせる（つづき）

▶グループを呼び出すときは



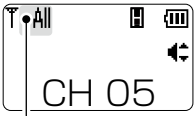
① **[機能]** キーを繰り返し短く押して、「グループ番号」（初期設定時：01）を選択します。

② **[CH/設定] キーを押して編集モードにします。**

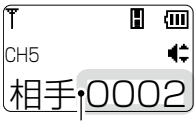
③ **[▲]** キー、または **[▼]** キーを押して、呼び出しをする相手のグループ番号（例：02）に合わせます。

※ 通話相手の無線機側でメンバー指定（ ）をしていないグループ番号と同じ番号を選択して呼び出しをしても、その相手には、自分の音声が聞こえません。
ただし、その相手から最初に呼び出しがあったときは、相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示（P.24）しますので、呼び出しを受ける前の表示に戻る（終話する）までに、**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、応答できます。
終話するまでのあいだに、送信と受信を交互にすることで、通話をつづけられます。

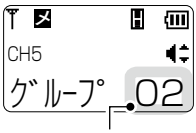
3.呼び出す



「All」（全局）表示



「相手局番号」表示



「グループ番号」表示

① 呼び出す前に、現在の表示内容を確認します。
表示内容によって、**3とおりの呼び出しかた**ができます。

◎ **全局呼び出しをする場合**
「All」（全局）表示　（例：CH 05）

◎ **個別呼び出しをする場合**
「相手局番号」表示　（例：相手0002）

◎ **グループ呼び出しをする場合**
「グループ番号」表示　（例：グループ 02）

② **[PTT]**（送信）スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。

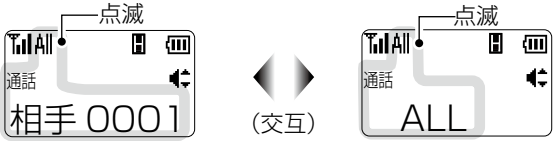
- **[状態表示]** ランプが赤色に点灯します。

4.呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、応答できます。

◎全局呼び出しを受けたとき

相手局番号とALLを交互に点滅表示します。



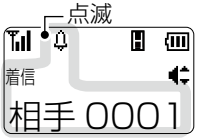
相手局番号を点滅表示　　ALLを点滅表示

◎個別呼び出しを受けたとき

相手局番号を点滅表示します。

ポケットビープ機能やポケットビープメロディー機能が設定されているときは、設定されたビープ音やメロディー音が鳴ります。（P.32、P.42）

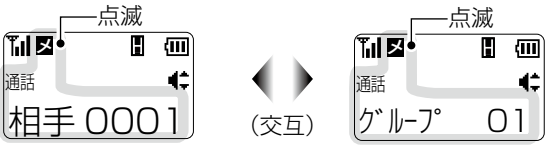
※応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。



相手局番号を点滅表示

◎グループ呼び出しを受けたとき

相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示します。



相手局番号を点滅表示　　グループ番号を点滅表示

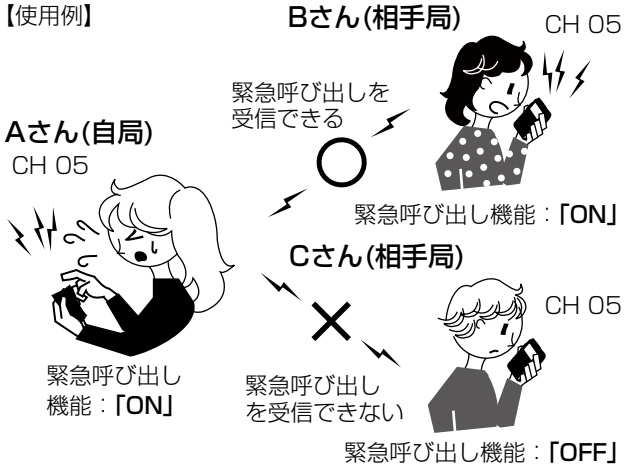
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

個別呼び出し機能による通話で、迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
　設定モードから設定を変更できます。(P.46)

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

あらかじめ、個別呼び出し機能(P.44)と緊急呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。
設定されていないときは、緊急呼び出しの受信、または応答ができません。



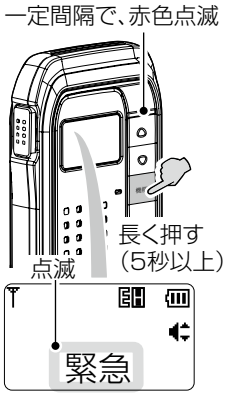
⚠警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。
本製品にヘッドセットやイヤホンを取り付けて、緊急呼び出し機能を使用する場合は、**[▲]/[▼]**キーを押して、適切な音量になっていることを確認してください。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

◎音量が最小に設定されている場合
◎動作中、電池の消耗により自動的に電源が切れた場合
◎電波状況の悪化により電波が届かない場合
◎「呼出CH(CH15)」を選択している場合
◎混信防止機能(P.11)により送信制限されている場合

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)



【緊急呼び出しのしかた】

下記の操作をすると、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しします。

① 緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択します。

② 「緊急」が表示されるまで、**[機能]** キーを長く(5秒以上)押します。

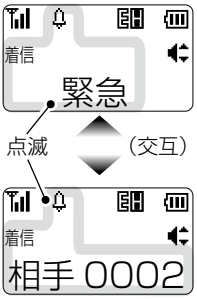
- 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が**「ピピピ・・・」**と鳴って、一定の間隔ごとに、**[状態表示]** ランプが赤色に点滅します。

③ その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

- 応答があると、警告音が停止して、**[状態表示]** ランプが緑色に点灯します。

④ 通話をつづけます。

- 終話すると、「緊急」表示の点滅を停止し、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。



(例:相手0002)

【緊急呼び出しを受けたときは】

① 警告音が**「ピピピ・・・」**と鳴って、**[状態表示]** ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急」と「相手局番号」を交互に表示します。

② **[PTT]** (送信)スイッチを押して、応答します。

- 警告音が停止します。

③ 通話をつづけます。

- 終話すると、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを停止するには】

無線機の電源を切ることで、緊急呼び出しを停止できます。

VOX対応の別売品を使用したときの緊急呼び出し操作について

VOX機能を「ON」に設定(P.33)して、緊急呼び出しを受けたときは、本製品の**[PTT]** (送信)スイッチを押すと、警告音を停止します。
警告音停止後は、VOX対応のマイク(別売品)から応答してください。

■ Lone Worker機能

本製品を一定時間操作しなかった場合、Lone Worker機能が動作します。
Lone Worker機能が動作すると、緊急呼び出し機能が自動的に動作します。
警備中などに定期連絡を義務付けている場合で、何らかの事故が発生して連絡ができなかった場合などに便利です。
※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
　設定モードから設定を変更できます。(P.47)

【動作について】
無線機の操作をしない状態が60分間つづいた場合、**「ピッ」**と警告音が鳴ります。
警告音が鳴ったあと、さらに60秒間操作をしない状態がつづくと、緊急呼び出しが自動的に動作します。
※緊急呼び出しが動作するまでに、スイッチ操作、またはキー操作をすると、警告音を鳴らすまでの時間(60分)がリセットされます。
※無線機の電源を切ることで、緊急呼び出しを停止できます。

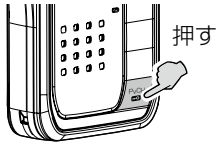
■ マンダウン機能

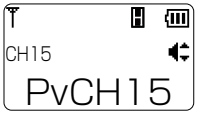
本製品を使用している人が倒れるなどして、本製品が60度以上傾いた状態が一定時間つづくと、マンダウン機能が動作します。
マンダウン機能が動作すると、緊急呼び出し機能が自動的に動作します。
※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
　設定モードから設定を変更できます。(P.46)

【動作について】
無線機が60度以上傾いた状態が10秒間つづいた場合、**「ピッピッピッ」**と警告音が鳴ります。
警告音が鳴りはじめて、無線機が60度以上傾いた状態が10秒間つづくと、緊急呼び出しが自動的に動作します。
※緊急呼び出しが動作するまでに無線機の傾きを30度以内にもどすと、マンダウン機能が再設定されます。
※無線機の電源を切ることで、緊急呼び出しを停止できます。

緊急呼び出し機能、Lone Worker機能、マンダウン機能の使用について
本製品に搭載されているLone Worker機能、マンダウン機能は、電池の消耗、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。
補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。
緊急呼び出し機能、Lone Worker機能、マンダウン機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

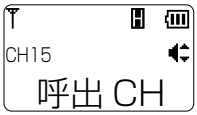
■ プライベートチャンネル機能





プライベートチャンネル表示

（1秒後）



プライベートチャンネル番号

特定の通話チャンネル（例：呼出CH）をプライベートチャンネルに設定することで、よく利用する通話チャンネル（例：CH 05）との切り替えが簡単になります。

※工場出荷時や全設定初期化時、「呼出CH」（呼出用チャンネル：CH15）がプライベートチャンネルに設定されています。設定モードから設定を変更できます。（P.47）

【操作のしかた】

[PvCH/]キーを短く押すと、プライベートチャンネル番号に切り替わります。

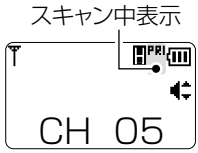
同じ操作をすると、通話チャンネル番号に戻ります。

※プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、プライベートチャンネル機能は無効です。

■ プライベートチャンネルスキャン機能

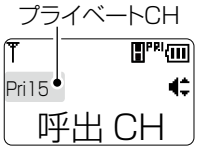
よく利用する通話チャンネル（例：CH 05）を受信しながら、プライベートチャンネル番号（例：呼出CH）を一定の時間ごとに受信（監視）できます。

※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。下記の操作をする前に、設定モードで、スキャンの設定（P.48）を「PRI」に設定してください。



通話チャンネル表示

（交互）



呼出用チャンネル表示

【操作のしかた】

「SCAN」を割り当てた**[プログラム]**キー操作をすると、**「ピッ」**と鳴ります。

- プライベートチャンネルスキャンを開始します。
  - ※「呼出CH」（呼出用チャンネル:CH15）をプライベートチャンネルに設定したときは、右記のように切り替わります。
  - ※プライベートチャンネル番号に秘話キーが設定されているときは、スキャン中に、「 」が表示されます。
  - ※プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

【プライベートチャンネルスキャンを解除するには】

[機能]キー、**[CH/設定]**キー、**[プログラム]**キー、**[PvCH/]**キー、または**[PTT]**（送信）スイッチを押します。

※電源を入れなおしても、解除されません。

■ プライベートチャンネルスキャン機能（つづき）

【プライベートチャンネルスキャン動作について】

◎ スキャン中は、通話チャンネルで待ち受け中、2秒ごとにプライベートチャンネルをスキャンします。
スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

◎ 電波を受信中は、設定モードのスキャン停止時間（P.49）とスキャン再開時間（P.49）の設定にしたがってスキャンします。
このとき、緊急呼び出しをするとスキャン動作が解除されます。

◎ プライベートチャンネルに上空用チャンネル（S1～S5）が設定（P.50）されている場合は、上空用チャンネルをプライベートチャンネルスキャンの対象にできます。

◎ スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

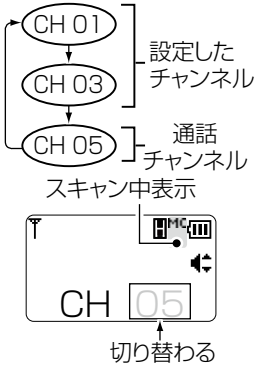
■ メモリーチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネルと、設定モードで設定したチャンネルを順次切り替える機能です。

※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
下記の操作をする前に、設定モードで、スキャン機能の設定（P.48）を「MC」に設定してください。

※メモリーチャンネルスキャンをお使いになる前に、「メモリーチャンネル毎のスキャン設定」（P.48）でスキャン対象チャンネルを設定してください。

メモリーチャンネル
スキャンのイメージ



【操作のしかた】

「SCAN」を割り当てた**[プログラム]**キー操作をすると、**「ピッ」**と鳴ります。

● メモリーチャンネルスキャンを開始します。

※設定したチャンネルが1件だけで、その番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】

[機能]キー、**[CH/設定]**キー、**[プログラム]**キー、
[PvCH/🔑]キー、または**[PTT]**（送信）スイッチを押します。

※電源を入れなおしても、解除されません。

【メモリーチャンネルスキャン動作について】

◎ スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

◎ 電波を受信中は、設定モードのスキャン停止時間（P.49）とスキャン再開時間（P.49）の設定にしたがってスキャンします。
このとき、緊急呼び出しをするとスキャン動作が解除されます。

◎ スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

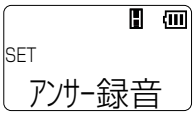
■ ワンタッチアンサー機能

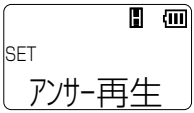
あらかじめ録音した音声を、[プログラム]キー操作により、送信する機能です。

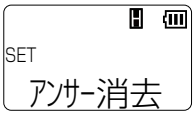
※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
　下記の操作をする前に、設定モードで、**[プログラム]**キーの割り当て(P.48)を「アンサー」に設定してください。

【録音のしかた】

①設定モードで、**[機能]**キーを繰り返し短く押して、「アンサー」を選択します。
②**[▲]**を1回押して、「アンサー録音」を選択します。
③**[PTT]**(送信)スイッチを押しつづけると録音します。
　※**[PTT]**(送信)スイッチをはなすと録音が停止します。
　※録音できる時間は10秒です。
　　[PTT](送信)スイッチを押しつづけていても10秒後に録音が停止します。
　※録音データがある場合は、上書きします。







【録音した音声を再生(確認)する】

①設定モードで、**[機能]**キーを繰り返し短く押して、「アンサー再生」を選択します。
②**[プログラム]**キーを押すと録音された音声が再生されます。

【録音した音声を消去するには】

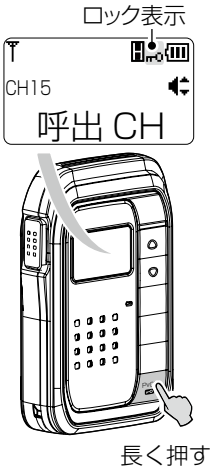
①設定モードで、**[機能]**キーを繰り返し短く押して、「アンサー再生」を選択します。
②**[▲]**を2回押して、「アンサー消去」を選択します。
③**[PTT]**(送信)スイッチを押します。
　●「消去中」が表示され、録音された音声が消去されます。

【操作のしかた】

待ち受け状態で「アンサー」を割り当てた**[プログラム]**キーの操作をすると、録音した音声を表示されている通話チャンネルで送信します。

■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。



【操作のしかた】

[PvCH/🔑]キーを長く(約1秒)押します。

- **「ピピッ」**と鳴って、🔑を表示します。

※同じ操作をすると、解除できます。

※オートキーロックを設定することで、一定時間、スイッチやキーが操作されないとき、キー操作を自動的にロックします。
工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
設定モードから設定を変更できます。(P.50)

【ロック中にできる操作】

◎ロック機能の解除
◎送信/受信の切り替え
◎モニター機能のON/OFF
◎電源のON/OFFと音量調整★

★音量調整がロックされるように、設定モード(P.50)で変更できます。

※エマージェンシーの設定がONの場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。

■ モニター機能

ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局への通話を聞けます。

※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

【操作のしかた】

[プログラム]キーを押しているあいだ、有効になります。

※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
設定モードで、**[プログラム]**キーの割り当て[P長](P.48)を「モニタ」に設定してください。

■ ポケットビープ機能

下記の呼び出しを受けたとき、ビープ音で通知する機能です。
このときに鳴るビープ音は、**[機能]**キー、**[CH/設定]**キー、**[プログラム]**キー、**[PvCH/🔑]**キー、または**[PTT]**（送信）スイッチの操作で、停止できます。

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】
「🔔」の点滅とビープ音で通知します。

【個別呼び出しによる呼び出しを受けたとき】
ビープ音で通知します。
※ユーザーコードと併用したときも同じです。
※ポケットビープ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、「🔔」の点滅だけになります。
※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。設定モードから設定を変更できます。（P.42）

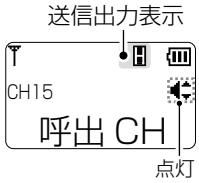
■ ポケットビープメロディー機能

ポケットビープ機能で呼び出しを受けたときの呼び出し音をメロディー音（9種類）に設定できます。
このときに鳴るビープ音は、**[機能]**キー、**[CH/設定]**キー、**[プログラム]**キー、**[PvCH/🔑]**キー、または**[PTT]**（送信）スイッチの操作で、停止できます。
※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。設定モードから設定を変更できます。（P.42）
※呼び出しを受けたときの表示は、ポケットビープ機能と同じです。

■ 送信出力の切り替え

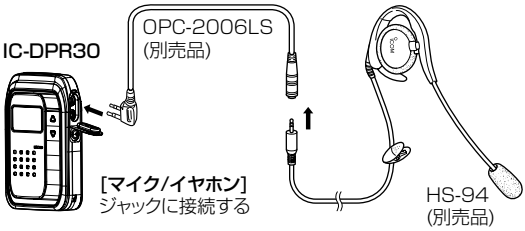
[CH/設定]キーを長く（約1秒）押すごとに、「1W（High）」/「0.5W（Middle）」/「0.2W（Low）」を切り替えできます。
※切り替えができるのは「🔊」が点灯しているときだけです。

◎ 1W（High）は「H」、0.5W（Middle）は「M」、0.2W（Low）は「L」を表示します。
◎ 通話相手との距離が近いときは、0.5Wや0.2Wで使用すると、消費電力を節約できます。



■ VOX機能の使いかた

本製品は**[PTT]**（送信）スイッチを押さずに、無線機本体のマイク、ヘッドセット（別売品）、またはBluetooth機器（VS-3）からの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能を搭載しています。
下図のように、本製品に別売品のVOX対応ケーブル（OPC-2006LS）と、ヘッドセット（HS-94/HS-95/HS-97のいずれか）を接続すると、VOX機能が使用できます。



ご注意
必ず本製品の電源を切ってから、OPC-2006LSを**[マイク/イヤホン]**ジャックに抜き差ししてください。

◎VOX機能の設定のしかた
設定モードで、VOX機能の設定（P.44）を「内部」、「外部」、または「Bluetooth」に変更してください。

◎VOX感度の設定のしかた
最適なVOXの感度に設定します。
①設定モードで、VOX感度の設定を選択します。（P.44）
②通話するときと同じ大きさの声を出しながら、**[▲]**キー、または**[▼]**キーを押して、VOX感度を設定します。
- 声を出しているあいだ、継続して**[状態表示]**ランプが赤色に点灯する感度に設定してください。

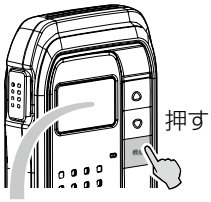
※**[状態表示]**ランプが赤色に点灯するだけで、送信はしません。
③**[PTT]**（送信）スイッチを押して、設定モードを解除します。

◎VOXディレイの設定のしかた
送信停止までの遅延時間を設定します。
①設定モードで、VOXディレイの設定を選択します。（P.44）
②**[▲]**キー、または**[▼]**キーを押して、VOXディレイを設定します。
③**[PTT]**（送信）スイッチを押して、設定モードを解除します。

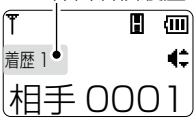
■ 着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号が記憶されます。
記憶された相手局番号は、呼び出しに利用できます。

※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
設定モードから設定を変更できます。(P.46)



1件目着信履歴



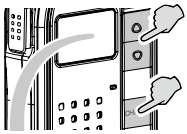
相手局番号履歴

【着信履歴の確認と呼び出しについて】

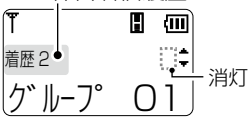
① 右図のように、「着歴1」と表示されるまで、**[機能]**キーを繰り返し短く押します。
※「着歴1」が表示されないときは、着信履歴がありません。

② **[CH/設定]**キーを押して編集モードにします。
※編集モード時は、「◀」が消灯します。
※着信履歴が2件以上の場合は、**[▲]**キー、または**[▼]**キーを繰り返し押すと、確認できます。
※「着歴1」から順に最新の履歴となるように記憶します。

③ 呼び出す相手、またはグループの番号を表示した状態で、**[PTT]**(送信)スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。
● **[状態表示]**ランプが赤色に点灯します。



2件目着信履歴



編集モード

【着信履歴の内容や件数に異常があると感じたときは】

設定モードの着信履歴消去(P.46)から履歴を消去してください。
それでも改善しない場合は、すべての設定を初期化(P.53)してください。

【着信履歴件数と履歴の消去について】

※最大10件の着信履歴を記憶できます。
10件を超えると、古い着信履歴から削除されます。
※全局呼び出しの場合は、着信履歴に記憶しません。
※着信履歴の消去(P.46)は、設定モードからできます。

■ 録音機能

送信したときの通話、および自局宛ての通話を録音できます。
録音された最新の内容（最大5分間の録音）は、録音履歴を消去するまで、保持されます。
5分を超えた内容は、その時点で1番古い録音内容を消去しながら録音されます。
※工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
　設定モードから設定を変更できます。（P.47）
※本製品の録音データは、取り出せません。

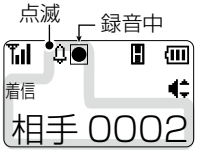
【録音機能をご利用時のご注意】
処理が完了する前にバッテリーパックを取りはずした場合、録音データが消えることがありますのでご注意ください。

1.呼び出しを受ける（録音開始）

相手の音声がスピーカーから聞こえると、自動で録音を開始します。
※録音一時停止中は、自動で録音されません。（P.48）

- **[状態表示]** ランプが緑色に点灯すると同時に、「●」が点滅します。

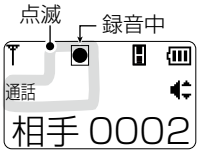
※自局から呼び出した場合でも、呼び出しを受けたときと同様に、「●」が点滅して自動で録音を開始します。



自局宛の呼び出しを受信したときの表示例

2.応答する（録音継続）

① **[状態表示]** ランプが消灯し、待ち受け状態になります。
　- 「●」は、点滅をつづけます。
② **[PTT]**（送信）スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に応答します。
　- **[状態表示]** ランプが赤色に点灯します。
　　「●」は、点滅をつづけます。

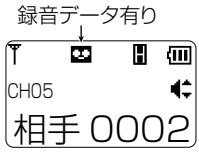


自局宛の呼び出しに応答したときの表示例

3.終話する（録音終了）

通話が終わったら、[PTT]（送信）スイッチをはなします。

- **[状態表示]** ランプが消灯します。
　その後、何も操作しない状態が5秒つづくと、「●」が消灯し、「☠」が表示されます。



終話したときの表示例

【録音した音声を再生するには】

①右図のように、(例:「録歴1:着」)表示されるまで、**[機能]**キーを繰り返し短く押します。

② **[CH/設定]**キーを押して編集モードにします。

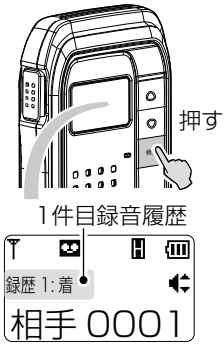
※編集モード時は、「◀」が消灯します。

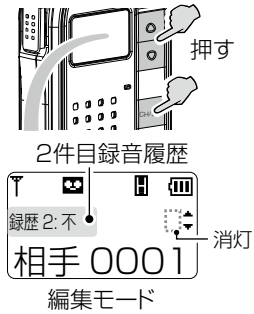
※着信履歴が2件以上の場合は、**[▲]**キー、または**[▼]**キーを繰り返し押すと、確認できます。

※「録歴1:着」から順に最新の履歴となるように記憶します。

③ 編集モードの状態で**[CH/設定]**キーを長く(約1秒)押します。

●「再生中」が表示されます。





【録音/再生機能の動作について】

◎送信したとき、および自局宛ての信号を受信したときに、自動で録音を開始します。

◎ユーザーコードや個別番号が一致しない場合など、音声が出力されない通信は、録音されません。
そのとき、再生中の場合は、再生をつづけます。

◎終話するまでの通話を1件として録音します。
録音を一時停止すると、送信中や受信中に再開しても、別の1件として録音されます。

◎録音時間の合計が5分を超えた場合には、その時点で1番古い録音内容を消去しながら録音されます。
録音件数は、録音時間の合計が5分以内であれば、最大30件です。

◎再生中に自局宛の呼び出しを受信した場合は、再生が停止されると同時に受信音声が出力され、録音を開始します。

◎緊急呼び出しを送信、または受信したとき、警告音が**「ピピピ・・・」**と鳴っているあいだは、「●」が点滅していますが、録音はされません。
応答されたら、録音を開始します。

■ Bluetooth®の使いかた

◎本製品のBluetooth機能を有効にすると、Bluetooth対応機器と接続できます。
※この機能は、設定モードでの設定が必要です。

◎Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。

◎本製品は、最大8台(ヘッドセット7台、データ端末1台)までのBluetooth機器を登録できますが、本製品とBluetooth機器を1対1の組み合わせで設定されることをおすすめします。

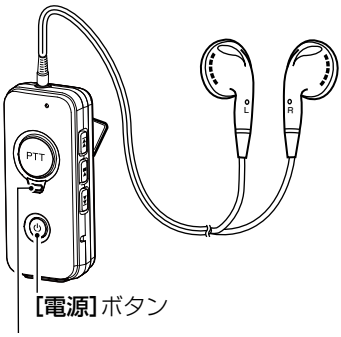
◎**VS-3(Bluetooth®ヘッドセット)**
本製品と別売品のVS-3をBluetoothで接続することで、VS-3から送受信の操作ができます。

■ ペアリングのしかた

ペアリング(接続の認証)とは、Bluetooth機器をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。
一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。
◎複数のBluetooth機器がある場所では、ペアリングしたいBluetooth機器が検索できないことがあります。
このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。
◎電源を切るなどして、Bluetooth接続を切断した場合は、無線機本体側のスピーカーから音が出るように切り替わります。
無線機本体側の音量ボリュームの上げすぎにご注意ください。

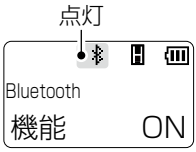
1.VS-3をペアリングモードにする

①LEDランプが赤/青交互に点滅するまで、VS-3の**[電源]**ボタンを長く(約6秒)押します。
②数秒後、**「ピパ★」**と音がして、LEDランプが赤/青交互に点滅したら、ボタンから手をはなします。
※はじめてVS-3をご使用になる場合は、電源を入れるだけでペアリングモードになります。
※ペアリングする機器がない状態が5分つづくと、ペアリングモードが解除され、さらに5分経過すると、電源が切れます。
★VS-3に接続しているイヤホンから音が鳴ります。



2.Bluetooth機能をONにする

①本製品の電源を切った状態で、**[機能]**キーを押しながら、電源を入れます。
● **「ピッ」**と鳴って、**「MODE CHG」**を表示します。
② **[機能]**キーから手をはなしたら、**「MODE CHG」**が表示されているあいだに、再度、**[機能]**キーを短く押します。
● **「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、**「Pビープ」**を表示すれば、設定モードに移行しています。
③ **[機能]**キーを繰り返し押して、「Bluetooth 機能」を選択します。
④ **[▲]**キーを押して「ON」にします。
● 「ᛒ」が点灯します。
⑤設定モードのまま、次の手順「3.IC-DPR30からVS-3をペアリングする」を操作します。



3.IC-DPR30からVS-3をペアリングする

① **[機能]**キーを繰り返し押して、「検HS」を選択します。
② **[PTT]**（送信）スイッチを押します。
- 「検索中」が表示されます。
- 「検索成功」が表示され、1秒後に検索結果を表示します。

※「検索失敗」が表示された場合は、VS-3がペアリングモードになっているか確認して、もう一度、検索してください。

③ **[▲]**キー、または**[▼]**キーを押して、接続したい機器を選択します。
④ **[CH/設定]**キーを長く（約1秒）押します。
- 「接続中」が表示されます。
- 「接続完了」が表示され、1秒後に「検HS」を表示します。

※「接続失敗」が表示された場合は、VS-3がペアリングモードになっているか確認して、もう一度、手順③から操作してください。

⑤ **[CH/設定]**キーを1回押して、**[PTT]**（送信）スイッチを押します。
- 設定モードが解除され、待受画面に戻ります。

【ペアリング後の動作について】
一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。
下記の条件を満たしている場合、自動で接続します。
◎無線機のBluetooth機能が「ON」
◎無線機が待ち受け状態
◎Bluetooth機器の電源が「ON」
※接続中は「✱」が点滅します。
接続が完了すると「✱」が点灯します。
※「Bluetooth 機器一覧」からも接続できます。（P.51）
※2018年6月現在、動作保証しているBluetooth機器は、VS-3だけです。

Bluetoothの通信においては、周辺機器の影響で通信範囲が著しく変化します。
◎電子レンジなどによる妨害
◎無線LANによる妨害
このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離をはなすなどしてください。
また、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

■ 設定項目一覧

各機能は、運用状況に応じて、設定モードからお好みの設定に変更できます。

機能名称	名称表示	初期設定値	参照
❶ポケットビープ	Pビープ	OFF	P.42
❷ポケットビープメロディー★1	MELO	1	P.42
❸送信モニター	TXBP	ON	P.42
❹終話信号受信ビープ	終BP	ON	P.42
❺ビープ音量設定	BP音	連動	P.42
❻音量固定時レベル	BP音	15	P.43
❼ユーザーコード	UC	CH共	P.43
❽秘話	秘話	CH共	P.43
❾チャンネル番号音声案内	案内	OFF	P.43
❿イコライザー機能	イコライ	標準	P.43
⓫マイクゲイン	マイクG	0	P.43
⓬VOX機能	VOX	OFF	P.44
⓭VOX感度★2	感度	3	P.44
⓮VOXディレイ★2	ディレイ	1.5	P.44
⓯個別呼び出し	個別	OFF	P.44
⓰自局番号設定★3	自局	0001	P.44
⓱相手局番号表示★3	相手	ON	P.45
⓲グループ番号表示★3	グループ(FUNC)	OFF	P.45
⓳メンバー指定★3	グループ(リスト)	すべて指定しない	P.45
⓴着信履歴★3	着歴	OFF	P.46
㉑終話後表示★3	終表	話前	P.46
㉒着信履歴消去★3	着歴	―――	P.46
㉓エマージェンシー	EMER	OFF	P.46
㉔マンダウン機能	M DN	OFF	P.46
㉕Lone Worker機能	LONE	OFF	P.47
㉖録音再生機能	録音	OFF	P.47
㉗音声録音消去	録歴	―――	P.47
㉘プライベートチャンネル	PvCH	ON	P.47
㉙プライベートチャンネル番号★4	CH	呼出	P.47

★1 ポケットビープ(❶)の設定が「MELO」のとき、設定できます。

★2 VOX機能(⓬)の設定が「内部」、「外部」、または「Bluetooth」のいずれかのとき、設定できます。

★3 個別呼び出し(⓯)の設定が「ON」のとき、設定できます。

★4 プライベートチャンネル(㉘)の設定が「ON」のとき、設定できます。

■ 設定項目一覧(つづき)

機能名称	名称表示	初期設定値	参照
㉚[プログラム]キーの割り当て★5	P短	OFF	P.48
	P長	OFF	P.48
㉛スキャン機能	SCAN	PRI	P.48
㉜メモリーチャンネル毎のスキャン設定★6	CH	スキャン対象外	P.48
㉝スキャン停止時間	停止	10秒	P.49
㉞スキャン再開時間	再開	5秒	P.49
㉟通話後スキャン動作	話後	解除	P.49
㊱スキャン一時スキップ機能	Skip	5分	P.49
㊲ワンタッチアンサー機能	アンサー	―――	P.49
㊳一時音量切り替え	一音	−5	P.50
㊴パワーセーブ★7	PWSV	OFF	P.50
㊵キーロック時の音量操作	ロック	VOL	P.50
㊶オートキーロック	Aロック	OFF	P.50
㊷電源キー長押し時間	電源	1S	P.50
㊸運用チャンネル	運用	陸上	P.50
㊹LCDコントラスト	LCD	12	P.51
㊺バックライト設定	ライト	AUTO	P.51
㊻Bluetooth機能	機能	OFF	P.51
㊼Bluetooth 検索(ヘッドセット)	検HS	―――	P.51
㊽Bluetooth 検索(データ端末)	検DT	―――	P.51
㊾Bluetooth 機器一覧	機器	機器なし	P.51
㊿Bluetooth 機器削除	削除	―――	P.51
(51)Bluetooth ボリューム連動	音量	連動	P.52
(52)Bluetooth 音声ボリューム★8	音声	32	P.52
(53)Bluetooth パワーセーブ	PWSV	OFF	P.52
(54)Bluetooth ワンタッチPTT	OPTT	OFF	P.52
(55)Bluetooth PTT切り替え	PTT	ALL	P.52
(56)Bluetooth AF出力切り替え	AF	HS	P.53
(57)Bluetooth 初期化	リセット	NO	P.53
(58)全設定初期化	リセット	NO	P.53

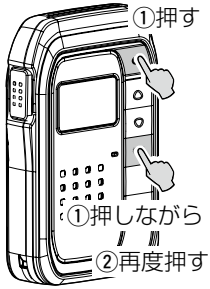
★5 [P短]と[P長]が「OFF」の場合、スキャン機能、スキャン一時スキップ機能、ワンタッチアンサー機能、一時音量切り替え機能の設定は表示されません。

★6 スキャン機能(㉛)の設定が「MC」のとき、設定できます。

★7 個別呼び出し(⑮)の設定が「OFF」のとき、設定できます。

★8 Bluetooth ボリューム連動((51))の設定が「固定」のとき、設定できます。

■ 設定モードに移行するには



【操作のしかた】

①本製品の電源を切った状態で、**[機能]**キーを押しながら、「MODE CHG」が表示されるまで、[⏻]キーを押します。

- 「ピッ」と鳴ります。

※「MODE CHG」が表示されなかったときは、電源を切り、操作をやりなおしてください。

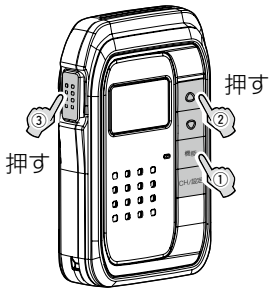
②「MODE CHG」が表示されているあいだに、再度、**[機能]**キーを短く押します。

- 「ピピッ」と鳴って、「SET」を表示したあと、「Pビープ」が表示されていれば、設定モードに移行しています。

設定モード移行前　設定モード移行直前　設定モード移行

■ 設定のしかた

設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。



【操作のしかた】

① **[機能]**キー、または**[CH/設定]**キーを繰り返し押して、設定項目(❶～㊽)を選択します。

② 目的の機能名称で、**[▲]**/**[▼]**キーを押します。

- 設定値が切り替わります。

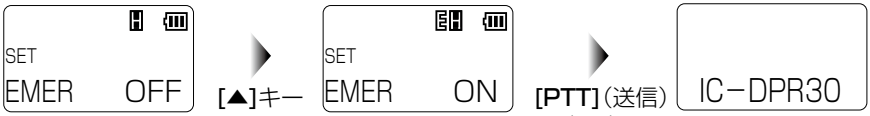
※ほかの機能も変更するときは、手順①と②の操作を繰り返します。

③ **[PTT]**(送信)スイッチを押します。

- 選択した設定値が確定され、運用できる状態になります。

※設定値を変更後に、**[⏻]**(電源)キーを押して、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

※設定モードを解除するまで通話できません。



設定項目表示　設定値変更(例:ON)　設定値確定直後

■ 設定項目について

操作については、41ページをご覧ください。

❶ポケットビープ （初期設定値：OFF）

SET
Pビープ OFF

ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF ：ポケットビープを使用しない
- 30回 ：「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 ：「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分 ：「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 ：「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- PI ー ：「ピー」と音が1回鳴る
- PPP ：「ピピピ」と音が1回鳴る
- MELO：[ポケットビープメロディー]（❷）で設定したメロディー音が鳴る

※グループ、または全局呼び出しを受けたときは、ポケットビープが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

❷ポケットビープメロディー （初期設定値：1）

SET
MELO 1

ポケットビープ着信時のメロディー音を設定します。

- 選択範囲：1～9

※[Pビープ]（❶ポケットビープ）を「MELO」に設定したとき、表示されます。

❸送信モニター （初期設定値：ON）

SET
TXBP ON

[PTT]（送信）スイッチを押したときのビープ音を設定します。

- ON ：ビープ音（ピッ）が鳴る
- OFF：ビープ音（ピッ）が鳴らない

※送信できない場合など、禁止されている操作は、送信モニターの設定に関係なく、音色の異なるビープ音が鳴ります。

※VOX機能による送信時は、送信モニターの設定に関係なく、鳴りません。

❹終話信号受信ビープ （初期設定値：ON）

SET
終 BP ON

通話相手の終話信号を受信したとき、ビープ音で通知する機能です。

❺ビープ音量設定 （初期設定値：連動）

SET
BP 音 連動

ポケットビープやキー操作などの音量を設定します。

- 連動：無線機本体で調整した音量に連動して可変する
- 固定：[BP音]（❻音量固定時レベル）で設定された音量に固定する

操作については、41ページをご覧ください。

❻音量固定時レベル　（初期設定値：15）

[BP音]（❺ビープ音量設定）を「固定」に設定したときのポケットビープやキー操作などの音量を設定します。

SET
BP 音　15

● 選択範囲：0～32

※[BP音]（ビープ音量設定）を「固定」に設定したとき表示されます。

❼ユーザーコード　（初期設定値：CH共）

通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

SET
UC　CH 共

● CH共：通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する
● CH毎：通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する

❽秘話　（初期設定値：CH共）

通話チャンネル共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを設定します。

SET
秘話　CH 共

● CH共：通話チャンネル共通の秘話キーを使用する
● CH毎：通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用する

❾チャンネル番号音声案内　（初期設定値：OFF）

通話チャンネル番号を読み上げる機能を設定します。

SET
案内　OFF

● OFF：使用しない
● ON：電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択された通話チャンネル番号を読み上げる

※「呼出CH」（呼出用チャンネル：CH15）選択時は、「呼び出し」と読み上げます。
※上空用チャンネル（CH S1～CH S5）選択時は、通話チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。

❿イコライザー機能　（初期設定値：標準）

無線機本体のスピーカーから出力される音質を設定します。

SET
イコライ　標準

● 選択範囲：OFF、低+2、低+1、標準、高+1、高+2

⓫マイクゲイン　（初期設定値：0）

マイクの感度を設定します。

SET
ﾏｲｸG　0

● 選択範囲（3dB刻み）：－15（低）～0（中）～9（高）

※感度を上げる（数値を大きくする）と比較的小さな声でも通信相手に聞こえやすくなりますが、まわりの音も聞こえやすくなります。

■ 設定項目について（つづき） **操作については、41ページをご覧ください。**

⓬VOX機能 （初期設定値：OFF）

SET
VOX OFF

VOX機能について設定します。
VOX機能を「内部」、「外部」、「Bluetooth」のいずれかに設定すると、マイクに向かって呼びかけるだけで、送信できます。

- OFF　　：VOX機能を使用しない
- 内部　　：無線機本体のマイクによるVOX送信ができる
- 外部　　：外部ヘッドセットのマイクによるVOX送信ができる
- Bluetooth：BluetoothのマイクによるVOX送信ができる

⓭VOX感度 （初期設定値：3）

VOX
感度 3

VOXの感度を設定します。

- 選択範囲（1刻み）：1（低）～3（中）～5（高）

※［VOX］（⓬VOX機能）を「内部」、「外部」、「Bluetooth」のいずれかに設定したとき表示　されます。
※VOX感度を上げる（数値を大きくする）と、比較的小さな声でも送信できますが、周りの雑音でも送信しやすくなりますので、ご注意ください。

⓮VOXディレイ （初期設定値：1.5）

VOX
ﾃﾞｨﾚｲ 1.5

VOX使用時、送信停止までの遅延時間を設定します。
話している途中に受信に切り替わる場合は、長く設定してください。

- 選択範囲（0.5秒刻み）　：0.5（短）～1.5（中）～3.0（長）

※［VOX］（⓬VOX機能）を「内部」、「外部」、「Bluetooth」のいずれかに設定したとき表示されます。

⓯個別呼び出し （初期設定値：OFF）

SET
個別 OFF

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF：使用しない
- ON　：使用する

※無線機本体のパワーセーブ機能と併用できないため、「ON」に設定すると、［PWSV］（㊴パワーセーブ）の設定（P.50）は、自動的に「OFF」になり、変更できません。

操作については、41ページをご覧ください。

⑯自局番号設定　（初期設定値：0001）

個別呼び出しを受けるための自局番号を設定します。

- 選択範囲：0001～9999

※［個別］（⑮個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示されます。

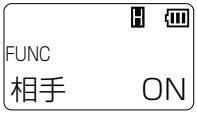
【編集できる桁を変更するには】

① **[CH/設定]**キーを長く（約1秒）押します。
　- 上位1桁目が点滅します。

② 上位2桁目以降は、**[CH/設定]**キーを繰り返し短く押します。

③ 編集を終了するときは、**[機能]**キーを短く押します。
　- 桁の点滅が点灯に変わります。

⑰相手局番号表示　（初期設定値：ON）

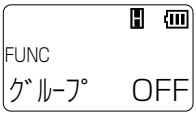


個別呼び出しする相手の自局番号を選択する項目の表示について設定します。

- ON　：表示する
- OFF：表示しない

※［個別］（⑮個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示されます。

⑱グループ番号表示　（初期設定値：OFF）

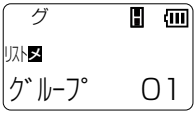


グループ呼び出しをする相手のグループ番号を選択する項目の表示について設定します。

- OFF：表示しない
- ON　：表示する

※［個別］（⑮個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示されます。

⑲メンバー指定　（初期設定値：すべて指定しない）



メンバー指定時の表示例

メンバー指定（メ 点灯）したグループ番号（01～10）でグループ呼び出しを受けると着信します。

- メ 点灯：指定する
- メ 消灯：指定しない

※［個別］（⑮個別呼び出し）を「ON」に設定したとき、表示されます。

※設定は、**[プログラム]**キーを押すごとに、切り替わります。

※複数のグループ番号をメンバーに指定できます。
　指定するグループ番号の選択は、**[▲]**キー、または**[▼]**キーを押します。

※メンバー指定をしていないグループ番号（メ 消灯）でグループ呼び出しを受けても、着信しません。

■ 設定項目について（つづき） **操作については、41ページをご覧ください。**

⑳着信履歴 （初期設定値：OFF）

FUNC
着歴 OFF

個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号やグループ番号を着信履歴（P.34）として表示する設定です。

- OFF ：表示しない
- ON ：表示する

※［個別］（⑮個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示されます。
※着信履歴は、「着歴 OFF」のときも記憶されます。

㉑終話後表示 （初期設定値：話前）

SET
終表 話前

通話を終了後、待ち受け状態での表示内容を設定します。

- 話前 ：通話前の表示に戻る
- CH ：通話チャンネル表示に戻る
  ※個別呼び出しを受けて応答しなかった場合は、相手局番号を点滅表示します。（P.24）

※［個別］（⑮個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示されます。

㉒着信履歴消去 （初期設定値：ーーー）

SET
着歴 ーーー

自局番号やグループ番号の変更により、着信履歴を個別呼び出しなどに利用できなくなった場合、その履歴を消去します。

- ーーー ：**[PTT]**（送信）スイッチを押しても、消去されない
- 消去 ：**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、消去される

※消去後、再度、**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、設定モードが解除されます。
※［個別］（⑮個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示されます。
※「消去」を選択後、［PTT］（送信）スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、消去しないと認識され、「ーーー」に切り替わります。

㉓エマージェンシー （初期設定値：OFF）

SET
EMER OFF

緊急呼び出し（エマージェンシー）機能を設定します。

- OFF ：使用しない
- ON ：使用する

※緊急呼び出し機能を使用するには、この機能と個別呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。

㉔マンダウン機能 （初期設定値：OFF）

SET
M DN OFF

本製品を身に付けた状態で人が倒れるなど、本製品が60度以上傾いた状態がつづくと、自動的に緊急呼び出し（エマージェンシー）をする機能について設定します。

- OFF ：使用しない
- ON ：使用する

※［EMER］（㉓エマージェンシー）を「ON」に設定したとき表示されます。

操作については、41ページをご覧ください。

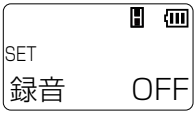
㉕Lone Worker機能　（初期設定値：OFF）

本製品を一定時間操作しなかった場合、自動的に緊急呼び出し（エマージェンシー）をする機能について設定します。

- OFF：使用しない
- ON　：使用する

※［EMER］（㉓エマージェンシー）を「ON」に設定したとき表示されます。

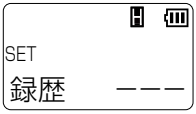
㉖録音再生機能　（初期設定値：OFF）



自局宛の通話を録音する機能について設定します。

- OFF：使用しない
- ON　：使用する

㉗音声録音消去　（初期設定値：ーーー）

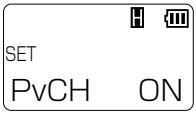


録音した音声の履歴を消去します。

- ーーー　：**[PTT]**（送信）スイッチを押しても、消去されない
- 消去　　：**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、消去される

※消去後、再度、**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、設定モードが解除されます。
※［録音］（㉖録音再生機能）を「ON」に設定したとき表示されます。
※「消去」を選択後、**[PTT]**（送信）スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、消去しないと認識され、「ーーー」に切り替わります。

㉘プライベートチャンネル　（初期設定値：ON）

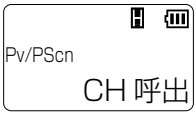


プライベートチャンネル機能（P.28）を設定します。

- ON　：使用する
- OFF：使用しない

※「ON」に設定すると、**[PvCH/]**キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。

㉙プライベートチャンネル番号　（初期設定値：呼出）



通話チャンネル、または上空用チャンネル（S1～S5）からプライベートチャンネルを設定します。

- 選択範囲：01～14、呼出、16～30、S1～S5

※［PvCH］（㉘プライベートチャンネル）を「ON」に設定したとき表示されます。
※上空用チャンネルをプライベートチャンネルに設定する場合は、［運用］（㊸運用チャンネル）を「上空」、または「陸空」に設定してください。
※上空用チャンネルをプライベートチャンネルに設定した状態で、［運用］（㊸運用チャンネル）を「陸上」に設定すると、プライベートチャンネルは、「CH呼出」（呼出用チャンネル：CH15）に設定されます。

■ 設定項目について（つづき） **操作については、41ページをご覧ください。**

㉚［プログラム］キーの割り当て （初期設定値：OFF）

［プログラム］キーを短く、または長く（約1秒）押したときに動作する機能を設定します。

- OFF　　：使用しない
- モニタ★　：モニター機能を使用する（P.31）
- CH　　：表示を通話チャンネルに切り替える
- SCAN　：スキャン機能を使用する（P.28）
- アンサー：ワンタッチアンサー機能を使用する（P.30）
- Skip　　：スキャン一時スキップ機能を使用する
- 録停　　：録音の一時停止と再開をする
- 一音　　：一時的に音量を変更する

★［P長］にだけ割り当てできる項目です。

㉛スキャン機能 （初期設定値：PRI）

スキャンタイプを設定します。

- PRI　：プライベートチャンネルスキャンを有効にします。
  スキャンを開始したときのチャンネルと、プライベートチャンネルをスキャンします。
- MC　：メモリーチャンネルスキャンを有効にします。
  スキャンを開始したときのチャンネルと、［メモリーチャンネル毎のスキャン］項目（㉜）で設定したメモリーチャンネルをスキャンします。

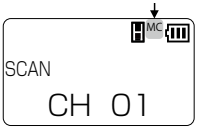
※［P短］/［P長］（㉚**［プログラム］**キーの割り当て）のいずれかに「SCAN」を設定したとき表示されます。

※「PRI」選択時、プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

※「MC」選択時、設定したチャンネルが1件だけの場合、その通話チャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

㉜メモリーチャンネル毎のスキャン設定 （初期設定値：スキャン対象外）

指定時、「MC」が点灯



スキャンするメモリーチャンネルについて設定します。

- 選択範囲：01～14、呼出、16～30、S1～S5★

★［運用］（㊸運用チャンネル）を「上空」、または「陸空」に設定したときに、選択できます。

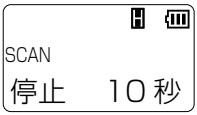
※［SCAN］（㉛スキャン機能）を「MC」に設定したとき表示されます。

※チャンネル選択後、**［プログラム］**キーを押すごとに、メモリーチャンネルスキャンの対象チャンネルとして指定/解除が切り替わります。

※スキャンするメモリーチャンネルに指定すると、表示部に「MC」が点灯します。

操作については、41ページをご覧ください。

㉝スキャン停止時間　（初期設定値：10秒）



電波を受信中、プライベートチャンネルスキャン、メモリーチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

●選択範囲：2秒～20秒（2秒刻み）、保持

※電波を受信中に、スキャン停止時間（2秒～20秒）が経過すると、スキャンを再開します。なお、スキャン停止時間（2秒～20秒）が経過する前に電波が途切れたときは、スキャン再開時間の設定にしたがってスキャンを再開します。

※「保持」を設定したときは、待ち受け状態になるまで、スキャンを停止します。

㉞スキャン再開時間　（初期設定値：5秒）

スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンを再開するまでの時間を設定します。

● 即時　　：すぐにスキャンを再開
● 1秒～5秒：設定時間後にスキャンを再開
● 解除　　：電波が途切れたときスキャンを解除

㉟通話後スキャン動作　（初期設定値：解除）

スキャン中、**[PTT]**（送信）スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

● 解除：スキャンを解除
● 再開：数秒後、スキャンを再開

㊱スキャン一時スキップ機能　（初期設定値：5分）

スキャン一時停止時に、そのときのチャンネルを、メモリーチャンネルスキャンの対象から除外する時間を設定します。

● 選択範囲（5分刻み）：5分～15分、保持

※［P短］/［P長］（㉚**[プログラム]**キーの割り当て）のいずれかに「Skip」を設定したとき表示されます。

※スキャン一時スキップ機能を使用するには、［SCAN］（㉛スキャン機能）を「MC」に設定する必要があります。

※「保持」を選択したときは、メモリーチャンネルスキャンを解除するまで、スキップ指定した通話チャンネルをスキャンから除外します。

㊲ワンタッチアンサー機能　（初期設定値：———）

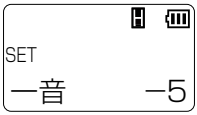
ワンタッチアンサー機能で送信する音声の録音（最大10秒）、再生、消去をします。

● ———　：録音された音声がないとき　　録音データがないとき
● 再生　　：**[プログラム]**キーを押すと、録音した音声が確認（再生）できる
● 録音　　：**[PTT]**（送信）スイッチを押しているあいだだけ、音声を録音する
● 消去　　：**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、録音内容が消去され、「———」を表示する

※［P短］/［P長］（㉚**[プログラム]**キーの割り当て）のいずれかに「アンサー」を設定したとき表示されます。

■ 設定項目について（つづき） **操作については、41ページをご覧ください。**

㊳一時音量切り替え機能 （初期設定値：－5）



周囲の会話を聞きたいとき、または通話相手の音声が小さいときなどに、瞬時に音量を上げる、または下げるレベルを設定します。

●選択範囲：－32～－1、＋1～＋32

※［P短］/［P長］（㉚**［プログラム］**キーの割り当て）のいずれかに「一音」を設定したとき表示されます。

㊴パワーセーブ （初期設定値：OFF）

電池の消費を抑えるためのパワーセーブ機能について設定します。

● OFF：使用しない
● ON ：使用する

※［個別］（⑮個別呼び出し）を「ON」に設定したときは、併用できないため、パワーセーブの設定が自動的に「OFF」になり、表示しません。

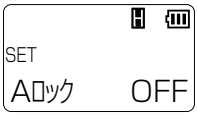
※「ON」に設定したときは、待ち受け状態が10秒を超えると、自動的にパワーセーブ機能が動作します。

㊵キーロック時の音量操作 （初期設定値：VOL）

ロック機能動作中の音量調整について設定します。

● VOL ：音量操作を有効にする
● 全キー：音量操作を無効にする

㊶オートキーロック （初期設定値：OFF）



一定時間、スイッチやキーが操作されないとき、それらの操作を自動的にロックします。

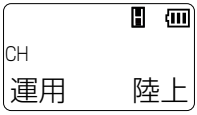
●選択範囲：OFF、15秒、30秒、1分、3分、5分、10分

㊷電源キー長押し時間 （初期設定値：1S）

無線機の電源を切るとき、**［⏻］**（電源）キーを長く押す時間（秒）を設定します。

●選択範囲（0.5S刻み）：1S ～10S

㊸運用チャンネル （初期設定値：陸上）



通話チャンネル（陸上/上空/陸空）について設定します。

● 陸上：01～14、呼出、16～30
● 上空：S1～S5
● 陸空：01～14、呼出、16～30、S1～S5

※CH01～CH14、CH15（呼出CH）、CH16～CH30は上空で使用できません。
上空で使用する場合はCH S1～CH S5を使用してください。

操作については、41ページをご覧ください。

㊹LCDコントラスト　（初期設定値：12）

表示部のコントラスト（濃淡）を調整します。

- 選択範囲：0（淡）～25（濃）

※**[プログラム]**キーを押すと、初期設定値に戻ります。

㊺バックライト設定　（初期設定値：AUTO）

表示部のバックライト状態について設定します。

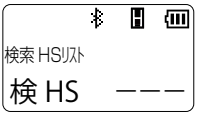
- OFF　：常時消灯
- AUTO：キー操作時バックライト点灯
- ON　：常時点灯

㊻ Bluetooth機能　（初期設定値：OFF）

Bluetooth機能について設定します。

- OFF：使用しない
- ON　：使用する

㊼Bluetooth 検索（ヘッドセット）　（初期設定値：―――）



周囲のBluetooth機能対応ヘッドセットを検索します。

- ―――：**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、検索を開始

※周囲にBluetooth機能対応ヘッドセットがないときは、「―――」を表示します。

※ペアリングをする場合は[CH/設定]キーを長く（約1秒）押します。

㊽Bluetooth 検索（データ端末）　（初期設定値：―――）

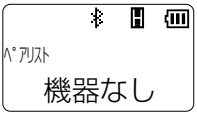
周囲のBluetooth機能対応データ端末を検索します。

- ―――：**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、検索を開始

※周囲にBluetooth機能対応データ端末がないときは、「―――」を表示します。

※将来的な機能拡張用のため、現在は機能しません。

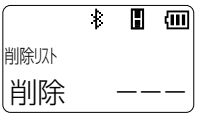
㊾Bluetooth 機器一覧　（初期設定値：機器なし）



過去にペアリングされたBluetooth機器一覧を表示し、接続、または切断します。

表示されている機器を接続/切断するには、**[CH/設定]**キーを長く（約1秒）押します。

㊿Bluetooth 機器削除　（初期設定値：―――）



過去にペアリングされたBluetooth機器一覧を表示し、リストから削除します。

表示されている機器を削除するには、**[CH/設定]**キーを長く（約1秒）押します。

※削除後は、「―――」を表示します。

■ 設定項目について（つづき） 操作については、41ページをご覧ください。

㊶Bluetooth ボリューム連動 （初期設定値：連動）

Bluetooth
音量 連動

Bluetooth接続時の音量について設定します。

- 連動 ：無線機本体の音量と連動する
- 固定 ：［音声］（㊷Bluetooth 音声ボリューム）で設定された音量に固定する

㊷Bluetooth 音声ボリューム （初期設定値：32）

Bluetooth
音声 32

［音量］（㊶Bluetooth ボリューム連動）を「固定」に設定しているときに、適用される値を設定します。

●選択範囲：1～32

※［音量］（㊶Bluetooth ボリューム連動）を「固定」に設定したとき表示されます。

㊸Bluetooth パワーセーブ （初期設定値：OFF）

Bluetooth
PWSV OFF

接続しているBluetooth機器のパワーセーブ機能について設定します。

- OFF ：使用しない
- ON ：使用する

※「ON」に設定したときは、VS-3と接続中に2分間、操作、または音声通信がなかった場合、電池の電流消費を抑えるため、VS-3がパワーセーブ状態になります。
パワーセーブ状態でVS-3の**[PTT]**ボタンを押す、または押しつづけたときは、最初の1回はパワーセーブ解除の操作となり送信状態になりません。
送信するには、VS-3の**[PTT]**ボタンの押しなおしが必要です。

㊹Bluetooth ワンタッチPTT （初期設定値：OFF）

Bluetooth
OPTT OFF

VS-3の**[PTT]**ボタンを短く押すごとに送信と受信を切り替える機能について設定します。

- OFF ：使用しない
- ON ：使用する

※「ON」に設定したときは、VS-3の**[PTT]**ボタンを押しつづける必要がなくなります。

㊺Bluetooth PTT切り替え （初期設定値：ALL）

Bluetooth
PTT ALL

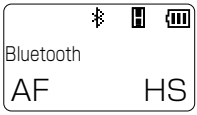
Bluetooth接続時、**[PTT]**（送信）スイッチを有効にする機器について設定します。

- ALL ：接続しているすべての機器の**[PTT]**（送信）スイッチが有効
- HS+E：Bluetooth機器と外部機器の**[PTT]**（送信）スイッチが有効
- HS+I ：Bluetooth機器と無線機本体の**[PTT]**（送信）スイッチが有効
- HS ：Bluetooth機器の**[PTT]**（送信）スイッチのみ有効

※複数の機器が有効になっている場合、先に操作した機器が優先されます。

操作については、41ページをご覧ください。

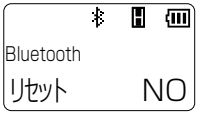
㊻Bluetooth AF出力切り替え　（初期設定値：HS）



Bluetooth接続時の受信音の出力先について設定します。

- ALL　：接続しているすべてのスピーカーから受信音を出力
- HS+E：Bluetooth機器と外部スピーカーから受信音を出力
- HS+I　：Bluetooth機器と無線機本体のスピーカーから受信音を出力
- HS　　：Bluetooth機器のみ受信音を出力

㊼Bluetooth 初期化　（初期設定値：NO）



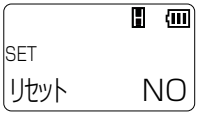
Bluetoothの全設定を初期化します。

※初期化したあとも、［機能］（㊻Bluetooth機能）は「ON」のままです。

- NO　：初期化しない
- YES ：**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、初期化する

※「YES」を選択後、**[PTT]**（送信）スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

㊽全設定初期化　（初期設定値：NO）



すべての設定を工場出荷時の状態に戻す（リセットする）ときの操作です。

- NO　：初期化しない
- YES ：**[PTT]**（送信）スイッチを押すと、初期化する

※「YES」を選択後、**[PTT]**（送信）スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

9 別売品について

本製品を便利にお使いいただくため、下記の別売品をご用意しています。

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧表

弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ でも、別売品についてご覧いただけます。
別売品については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

★1 本製品に付属されているものと同じです。
★2 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。
★3 EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28と組み合わせてご使用になれます。
★4 OPC-2375LS(イヤホン専用変換ケーブル)が必要です。
★5 OPC-2277LS(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
★6 VOX機能を使用する場合はOPC-2006LS(VOX対応変換ケーブル)、通話スイッチを使用する場合はOPC-2328(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
★7 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

バッテリー関係

BP-286★1 :Li-ionバッテリーパック
(Min:1960mAh、Typ:2020mAh)

充電する

BC-221★1 :急速充電器
BC-222★1 :ACアダプター(BC-221用の電源)

腰にかける

MBB-1★1 :ベルトクリップ
MB-127 :ベルトクリップ

イヤホンマイクロホン関係

HM-153★2★3 :イヤホンマイクロホン
HM-153LS★3 :イヤホンマイクロホン
HM-166★2 :小型イヤホンマイクロホン
HM-166LS :小型イヤホンマイクロホン

イヤホン関係

EH-14　:オープンエアー型イヤホン(φ2.5mm)
EH-15　:イヤホン(φ2.5mm)
EH-15B　:イヤホン(黒色　φ2.5mm)
SP-16★4　:耳かけ型イヤホン(φ3.5mm)
※ケーブル長:約50cm
SP-16B★4　:耳かけ型イヤホン(黒色　φ3.5mm)
※ケーブル長:約50cm
SP-16BW★4　:耳かけ型イヤホン(黒色　φ3.5mm)
※ロングケーブル/ケーブル長:約1m
SP-28　:耳かけ型イヤホン(φ2.5mm)
SP-29★4　:耳かけ型イヤホン(黒色　φ3.5mm)
※ケーブル長:約97cm

ヘッドセット関係

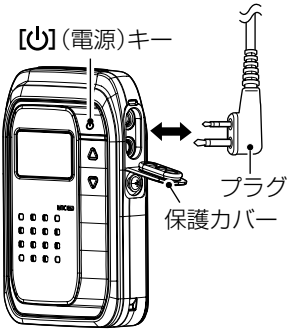
HS-85★2　:VOX機能付きヘッドセット
HS-88A★5　:ヘッドセット
HS-94★6　:イヤーフック型ヘッドセット
HS-95★6　:ネックアーム型ヘッドセット
HS-97★6　:咽喉マイクロホン
HS-99★6　:耳かけ型イヤホンマイクロホン
HS-102★7　:イヤホン型ヘッドセット
VS-3　:Bluetooth®ヘッドセット

そのほかの別売品

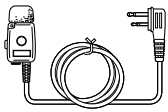
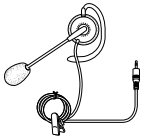
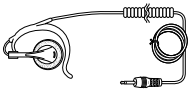
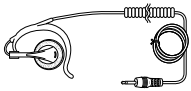
OPC-2006LS　:VOX機能用変換ケーブル
OPC-2144　:スリムL型プラグ変換ケーブル
OPC-2277LS　:通話スイッチ内蔵型接続ケーブル
OPC-2328　:通話スイッチ内蔵型接続ケーブル
OPC-2375LS　:イヤホン専用変換ケーブル
OPC-2359　:通話スイッチ内蔵型接続ケーブル

■ 別売品を接続するには

◎接続ケーブルを抜き差しする前に、本製品の電源を切ってください。
◎プラグを持ってまっすぐに抜き差ししてください。
◎防塵/防水対応により、差し込み部分がかたくなっていますので、接続するときは、プラグを奥まで確実に差し込んでください。
◎無線機本体の防塵/防水性能維持と端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを閉じた状態でご使用ください。



9　別売品について

HM-153LS/HM-153★1★2 イヤホンマイクロホン  HM-153LS	HM-166LS/HM-166★1 小型イヤホンマイクロホン HM-166LS	HS-85★1(VOX 機能) VOX機能付きヘッドセット
HS-88A★3 ヘッドセット 	HS-94★4★5(VOX機能) イヤーフック型ヘッドセット 	HS-95★4★5(VOX機能) ネックアーム型ヘッドセット
HS-97★4★5(VOX機能) 咽喉マイクロホン 	HS-99★4★5(VOX機能) 耳かけ型イヤホンマイクロホン 	HS-102★6 イヤホン型ヘッドセット
SP-28 耳かけ型イヤホン 	SP-29★7 耳かけ型イヤホン 	

EH-14　オープンエアー型イヤホン
EH-15　イヤホン
EH-15B　イヤホン(黒色)
SP-16★6　耳かけ型イヤホン
SP-16B★6　耳かけ型イヤホン(黒色)
SP-16BW★6　耳かけ型イヤホン
(黒色/ロングケーブル)

★1　OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。
★2　EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28と組み合わせてご使用になれます。
★3　OPC-2277LS(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
★4　VOX機能を使用する場合は、OPC-2006LS(VOX対応変換ケーブル)が必要です。
★5　通話スイッチを使用する場合は、OPC-2328(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
★6　OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
★7　OPC-2375LS(イヤホン専用変換ケーブル)が必要です。

■ 日常のお手入れと点検について

◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
また、バッテリーカバーを取りはずした状態の無線機は、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎ 無線機本体、充電器、バッテリーパックの各端子（充電端子や電源端子）にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

◎ 使用する前に、バッテリーパックがしっかりと装着されているか点検してください。
また、電池の残量が十分残っているか、表示部の残量表示（P.4）を確認してください。

◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。

◎ 音量が最小に調整されていないか、**[▲]**を押して、表示部の音量レベル（P.8）を確認してください。

◎ 防水性能を維持するため、バッテリーカバーのガイド部にホコリやゴミが付着したときは、乾いた布などで取り除いてください。

■ 初期状態に戻す（リセットする）には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

【操作のしかた】

① 本製品の電源を切った状態で、**[機能]**キーを押しながら、**「MODE CHG」**が表示されるまで、[⏻]キーを押します。
- **「ピッ」**と鳴ります。

② **「MODE CHG」**が表示されているあいだに、再度、**[機能]**キーを短く押します。
- **「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、**「Pビープ」**が表示されていれば、設定モードに移行しています。

③ **[CH/設定]**キーを1回押します。
- 「リセット NO」を表示します。

④ **[▲]**キーを押して、「リセット YES」を選択します。

⑤ **[PTT]**（送信）スイッチを短く押します。
- 「RESET」と表示されたあと、一時的に電源が切れ、初期状態になります。

ご注意

初期化操作をするときは、バッテリーパックの残量表示が[III](十分)の状態で操作してください。
なお、設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。
※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありません。
修理を依頼される前にもう一度、お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.60)までお問い合わせください。

現　象	原　因	処　置	参照
ユーザーコード、秘話機能が変更できない	各項目の編集モード「⇕」にしていない	変更したい項目が表示されている状態で、**[CH/設定]**キーを押す	—
通話距離が極端に短い	アンテナ部分を手で覆っている	アンテナ部分から手をはなす	P.6
	送信出力が0.2Wになっている	送信出力を1Wにする	P.32
メモリーチャンネルスキャンが動作しない	スキャンするメモリーチャンネルが正しく設定されていない	設定モードで、チャンネルを選択したあと、**[プログラム]**キーを押して、スキャンするメモリーチャンネルに設定する ※表示部に「MC」が点灯していることを確認する	P.48
充電が完了しない	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P.2
充電中に、充電器のランプが赤色/青色で交互に点滅する、または点灯しない	バッテリーパックが正しく装着されていない	充電器に正しく装着されていることを確認する	P.2
	ACアダプターが正しく接続されていない	ACコンセントに正しく接続されていることを確認する	P.2
	0℃～40℃以外の環境で充電している(BC-221使用時)	0℃～40℃の環境で充電する	P.2
	各端子(充電端子や電源端子)の接触不良	ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する	P.4
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P.8
電源が入らない	バッテリーパックの端子接触不良	バッテリーパックの端子を清掃する	—
	バッテリーパックの消耗	バッテリーパックを充電する	P.2
	バッテリーパックの過放電保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度、装着してから電源を入れる	—
送信できない(プップッ・・・が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎたとき	1分以上待ってから、もう一度、送信する	P.10
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	**[状態表示]**ランプが消灯してから送信する	P.11
「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.31

現　象	原　因	処　置	参照
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.9
	相手と自分のユーザーコードの設定が異なる	相手と同じユーザーコードを設定する	P.12
	相手が秘話機能を使用していない、または自分と秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P.15
	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P.19
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P.11
	アンテナ部分が手で覆われている	アンテナ部分を手で覆わないようにする	—
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の操作ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30、CH S1～CH S5★)に変更する ★上空で使用する場合	P.9
録音データがない	録音内容が無線機本体のメモリーに保存される前に、バッテリーパックを取りはずした	バッテリーパックを取りはずすときは、電源が切れたことを確認してから、バッテリーパックを取りはずす	P.35
ペアリングできない	ペアリングモードになっていない	ペアリングモードにする	P.37
	周辺にBluetooth対応機器が複数稼働している	ほかのBluetooth対応機器を停止させる	—
		ほかのBluetooth対応機器のない場所に移動する	—
	周辺の無線LAN機器、または電子機器が妨害している	ほかのワイヤレス通信を停止させたり、周辺機器との距離をはなす	—
通話が突然切れる/ノイズが入る	Bluetooth対応機器との距離がはなれている	Bluetooth対応機器との距離を近づける ※本製品との通信距離は約10mですが、周辺環境などによって通信距離が短くなることがあります。	—
	周辺の無線LAN機器、または電子機器が妨害している	ほかのワイヤレス通信を停止させたり、周辺機器との距離をはなす	—
VS-3に接続したイヤホンから音が出ない	音量が小さくなっている	[VOL](+)ボタンを押して、音量を設定しなおす	—
		無線機の音量設定を上げる (ボリューム連動機能有効時のみ)	P.8
	イヤホンプラグがはずれかけている	イヤホンジャックに正しく差し込む	—

※バッテリーパックを充電しなおしても電源が入らない場合や運用時間が短い場合は、バッテリーパックの故障、または寿命です。(P.4、P.5)
お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 従来製品との相互使用について

従来製品と相互に使用するときは、下記の弊社製無線機をお使いください。（2018年6月現在）

◎ IC-DPR1★　◎ IC-DPR3　◎ IC-DPR5★　◎ IC-DPR6
◎ IC-DPR7　◎ IC-DPR7BT　◎ IC-DPR100

★本製品の緊急呼び出し機能（エマージェンシー）を使用する場合は、相互使用できません。
※本製品以外は、上空用チャンネルで送信できません。

■ アフターサービスについて

「故障かな？と思ったら」（P.58）にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- **保証書について**
  保証書は販売店で所定事項（お買い上げ日、販売店名）を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- **弊社製品のお問い合わせ先について**
  お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社　サポートセンター
0120-156-313（フリーダイヤル）
◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949（通話料がかかります）
受付（平日 9:00～17:00）
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

■ 無線機本体

- 送信周波数範囲:351.16875〜351.38125MHz
- 受信周波数範囲:351.16875〜351.38125MHz
- チャンネル数:30チャンネル+5チャンネル
  ※上空用チャンネル(S1〜S5)
- 変調方式:4値FSK
- 使用温度範囲:−20〜+60℃
- 送信出力:1.0W/0.5W/0.2W(偏差:+20%、−50%)
- 低周波出力:400mW以上(8Ω、10%ひずみ時)
- 受信感度:−7dBuVemf以下
  (BER=1×10^{-2} スタティック時)
  0dBuVemf以下
  (BER=3×10^{-2} フェージング時)
- 外形寸法:54.9(W)×90.0(H)×19.8(D)mm
  (突起物を除く)
- 重量:約105.0g(BP-286装着時)

■ BC-221 急速充電器(付属品)

- 入力電圧:DC 5V
  ※付属のACアダプター(BC-222)を使用時
- 使用温度範囲:0〜+40℃
- 外形寸法:75.3(W)×65.3(H)×49.5(D)mm
  (突起物を除く)
- 重量:約64.5g(ACアダプターを除く)

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。
※バッテリーパック(BP-286)の定格については、5ページをご覧ください。

さくいん

B

Bluetooth機能表示 …… 7
Bluetoothの使いかた …… 36

L

Lone Worker機能 …… 27、47

U

UC（ユーザーコード） …… 12

V

VOX機能 …… 33

あ

アフターサービスについて…… 60
アンテナ（内蔵）…… 6

い

イコライザー機能…… 43

う

運用チャンネル…… 50

お

オートキーロック…… 50

か

簡単ご利用ガイド…… ii

き

緊急呼び出し機能…… 25
　Lone Worker機能 …… 27、47
　マンダウン機能 …… 27、46

く

グループ呼び出し…… 20

こ

故障かな?と思ったら …… 58
個別呼び出し機能…… 20
混信防止（キャリアセンス）機能…… 11

し

充電のしかた…… 2
　正しい充電のために …… 4
　充電時間 …… 5
従来製品との相互使用…… 60
上空用チャンネル…… 50
使用時間…… 5
初期状態…… 57

す

スキャン機能…… 48

せ

設定 …… 41
前面部 …… 6

ち

着信履歴…… 46
着信履歴機能…… 34

さくいん

つ

通信範囲（Bluetooth） …… 36
通話範囲（無線機本体）…… 11

て

電池の残量警告音…… 4
電池の残量表示…… 4

は

バックライト…… 51
バッテリーパック…… 1
　特性と寿命について …… 5
　膨らみについて …… 5
パワーセーブ機能…… 11
ハンドストラップ…… 1

ひ

表示部 …… 7
秘話 …… 15

ふ

プライベートチャンネル機能…… 28
　プライベートチャンネル
　スキャン機能 …… 28
［プログラム］キー…… 48

へ

ペアリング…… 37
別売品 …… 54
ベルトクリップ…… 1

ほ

防塵性能…… v
防水性能…… v

ま

マイクの使いかた…… 9
マンダウン機能…… 27、46

め

メモリーチャンネルスキャン機能… 29

ゆ

ユーザーコード…… 12

よ

呼出用チャンネル…… 9

り

リセットする…… 57

ろ

録音機能…… 35
録音機能表示…… 7
ロック機能 …… 31
　オートキーロック …… 50
ロック機能表示…… 7

わ

ワンタッチアンサー機能…… 30

高品質がテーマです。

A7320H-1J-②
Printed in Japan
© 2016–2018 Icom Inc.

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32